

2 0 1 4 年度（平成 2 6 年度）

事 業 計 画 書



学校法人 和泉短期大学

2 0 1 4 . 3 . 2 0

目 次

	ページ
1. 法 人	6
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	19
4. キリスト教活動	21
5. 研 究 活 動	23
6. 委 員 会 活 動	36
7. 広 報 活 動	43
8. 施設・設備経費	46
9. 財政の概要	48

学校法人 和泉短期大学 沿革

- 1952年8月 J. C. クラーク博士が敗戦直後の日本の困窮児を救済するため、G. E. バット博士、V. J. ミルス博士と共に社会福祉法人基督教児童福祉会を設立し、全国の養護施設（現・児童養護施設）への助成を開始。
- 1956年5月 当時、福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉界の重要な課題であったため、基督教児童福祉会は、本学の前身である福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を東京世田谷区に開設。
- 1960年5月 現任訓練の成果は、施設保母（現・保育士）養成機関を常設してほしいという強い要望となり、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母（現・保育士）養成機関・玉川保母専門学院を設置。
- 1965年4月 児童福祉事業の進展に伴い、さらに充実した高度な専門教育機関が求められるようになり、玉川保母専門学院はCCF の多大な援助のもと、学校法人クラーク学園和泉短期大学児童福祉科に改組転換。
- 1966年4月 児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置。
- 1976年8月 神奈川県相模原市に校舎に全学移転。
- 1985年4月 全国に先駆けて老人福祉ワーカーの養成機関・クラーク学園和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）を和泉短期大学に近接して開校。
- 1988年4月 和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）が介護福祉士養成機関として認定。和泉短期大学児童福祉科に社会福祉士国家試験受験資格を取得するための教育課程を新設。（2003 年度より休止）
- 2000年4月 児童福祉科から児童福祉学科へ名称を変更。
- 2004年11月 50 周年記念事業として体育館を竣工。
- 2006年5月 クラーク学園創立50 周年。子育てサロン『はっぴい』を開設。
- 2008年3月 （財）短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受診。
- 2009年7月 文部科学省・学生支援推進プログラムに選定-（1）。
- 2010年3月 和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を閉校。
- 4月 和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻を設置。
- 9月 文部科学省・大学生の就業力育成支援事業に選定-（2）。
- 2011年4月 キャリアデザインセンター（CDC）開設
- 2013年1月 文部科学省・産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に選定-（3）。
- 2013年4月 学校法人名を「クラーク学園」から「和泉短期大学」に変更。

設置学校等

理事長 深町 正信（ふかまち まさのぶ）

和泉短期大学

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

学 長：佐藤 守男（さとう もりお）＊ 2014 年 4 月 1 日就任

学科名	入学定員	収容定員
児 童 福 祉 学 科（2年制）	250名	500名
専攻科介護福祉専攻（1年制）	20名	20名

和泉短期大学 建学の精神

1952(昭和 27)年、米国財団 CCF (Christian Children's Fund, Inc. : キリスト教児童福祉会) 創立者の J. C. クラーク博士は敗戦直後の日本の困窮児を救済するため G. E. バット博士、V. J. ミルス博士と共に全国の養護施設(現・児童養護施設)の助成を開始した。1956(昭和 31)年、当時福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉の重要な課題であったため、キリスト教児童福祉会は、福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を開設した。このことが本学の起源である。CCF の日本事務所として CCWA が設立され、現在は NPO 法人チャイルド・ファンド・ジャパンがその愛の精神を受け継いでいる。

本学はヨハネによる福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」の標語を掲げ、キリスト教信仰に基づく児童福祉を基盤とした「愛と奉仕」[「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節]を建学の精神またスクールモットー、スクール聖句としている。



和泉短期大学のロード・マップ

Make a fresh start ～ 新たなる出発 ～

— 愛と奉仕 — love and service

- 隣人を自分のように愛しなさい — マタイによる福音書 22章 39節
— わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人が内で泉となり、
永遠の命に至る水がわき出る。 — ヨハネによる福音書 4章 14

①教育の理念

本学は、キリスト教信仰に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「**愛を実践する専門家**」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「**ユニバーサルサービス**」の達成をめざし、教え合い学び合う「**開かれた教育共同体**」の形成をめざす。

次の標語を教育実践の心構えとする。

1. MISSION：使命を確認し、責任を自覚する。
2. PASSION：熱意と誠実をもって行動する。
3. ACTION：進展・向上に向けて行動する。

②教育目標

本学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目標としている。

1. キリストの愛の教えを基盤とし保育（教育）・福祉専門職として人権を尊重する者。
2. さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる者。
3. 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する者。

③入学者受け入れの方針

和泉短期大学では、建学の精神、教育の理念及び教育目標に示される事項に賛同する者を入学者として受け入れる。

【児童福祉学科 志願者に推奨すること】

高等学校での幅広い学びと豊かな経験は、保育（教育）・福祉専門職を学ぶための基盤となる。下記は、とくに高等学校在学中に取り組むことを推奨する事項でもある。

1. 保育（教育）・福祉専門職に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 保育（教育）・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得する。

※これらは、児童福祉学科への出願・入学の条件ではない。

【専攻科介護福祉専攻 志願者に推奨すること】

保育士養成校での学びは、介護福祉の専門的な学びの基盤となる。下記は、とくに保育士養成校在学中に取り組むことを推奨する事項でもある。

1. 社会福祉に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 対人援助の基礎となる自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）を修得する。

※これらは、専攻科介護福祉専攻への出願・入学の条件ではない

④教育課程編成の方針

【児童福祉学科】

1. キリスト教の愛の教えを基盤とし、保育(教育)・福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、本学は「教養教育科目」、「専門教育科目」の学習区分を設定し体系的にカリキュラムを編成する。
2. 2年間で所定の単位を修得し、保育(教育)・福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、保育士資格・幼稚園教諭二種免許が取得できるようカリキュラムを配置する。
3. 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザー制により、学生の学ぶ意欲を支援する。
4. キャリア教育を推進し、保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

【専攻科介護福祉専攻】

1. キリスト教の愛の教えを基盤とし、介護福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、体系的にカリキュラムを編成する。
2. 1年間で所定の単位を修得し、介護福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、介護福祉士国家試験受験資格が取得できるようカリキュラムを配置する。
3. 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザー制により、学生の学ぶ意欲を支援する。
4. キャリア教育を推進し、介護福祉士資格のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

⑤学位授与の方針

1. 本学に2ヵ年以上在学し、所定以上の単位を修得した者。
2. 単位認定の条件・評価方法による成績評価に基づき単位を付与された者。
3. 子どもに対する確固とした価値観である「子どもの権利」を尊重できる者。
4. 本学の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」の実践者となる人間観を身につけている者。

学校法人和泉短期大学の基本構想

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人間形成】

－2014 年度－

キャンパスの集約
周辺土地の取得

居心地の良いキャン
パス（1号館トイレ
改修工事）

1、2号館屋上防水
塗装工事

消費増税を織り込
んだ予算編成

大学を取り巻く環境

18才人口の減少	大学進学率		大学の 財政赤字	大学の中退者・進路変更	短期大学 進学者の減少
	大 学	短期大学			
1992 年 205 万人	24.6%	11.7%	2012 年度	1 年間 8 人に 1 人（約 70,000 人） （経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等）	専門学校への 進学者増加
2013 年 123 万人	49.9%	5.2%	大学 35.4%	非正規雇用の増加	2013 年度 21.9%
2014 年 118 万人			短大 56.4%		

今年度の目標と課題

1. 建学の精神の具体化 建学の精神であるキリスト教信仰により、勤勉な社会人、忠実な職業人、実力のある実務者養成により質の高い幼児教育と社会福祉に携わる人間の養成を目指し、実現のために努力していく。	5. 入学前教育の充実 入学を許可された入学予定者が 4 月からの学生生活にスムーズに入れるように入学前の 12 月から 4 月に行っていることは、入学後の教育に良い効果が出ているため、入学前教育の受講した学生の感想、評価を活かしてさらなる充実を目指すために、一層力を入れていく。
2. ガバナンスとコンプライアンスの重視 新学長の下で教職員が一体となり、本学に定められた法や規則を遵守し、法人の管理統括を果たすために、理事会、評議員会に諮り、本学に課せられた大切な使命を力強く果たしていく。	6. 即戦力と倫理性のある職業人の養成 入学前教育と 2 年間の専門教育の知識と技術の体得を目指して教科目の充実と現場実習の強化に努める。また、実習連絡会での現場の先生方からの要望や頂いた意見に答えて保育実践者の育成を試みていく。
3. 募金活動と補助金の獲得 募金活動と国庫補助金により、学生の音楽環境を充実するための ML（ミュージック・ラボラトリー）が完成した。2014 年度も引き続き教育環境充実のための募金活動と新たな国庫助成を得るためプロジェクトチームを強化していく。	7. 地域の「知」の拠点としての働き ー「実力養成型の大学」を目指してー 教員と職員が車の両輪となり、教育共同体、研究共同体を形成し、学生の夢の実現のために「実力養成型」の大学として、子育て広場はっぴいと親子開放日等のプログラムを相模原市の知の拠点としての働きをするために努めていく
4. 健全な学校経営の維持 「人、もの、経済」を考え教育の内容を少しでも高めるために努力し、常に改革の精神を忘れずコスト意識を持って熱心に対応していく。 2014 年度予算では、4 つの大きな事業計画以外は極力経費削減に努め、法人として単年度の赤字をできるだけ出さないようにする。	8. 短期大学の特性を生かす 25 歳のキャリア像を比較しても 4 年制大学の卒業生とはその差が歴然であると社会から本学は評価されている。そのため保育者に求められる基礎学力、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力、実践する力を高めることを目標とする短期大学としての保育者養成校を目指す。

「2014年度和泉短期大学、同専攻科の事業計画」

理事長 深 町 正 信

学校法人和泉短期大学、同専攻科は例年、約90%以上の学生たちが地元の神奈川県下と東京都の近辺から入学してくる「**地元密着型**」の短期大学であり、また、その地元の幼稚園、保育園の保育士、高齢者施設及び社会福祉施設の介護福祉士の人材養成に大いに貢献してきたことを自負している。今年度も和泉短期大学の活動計画の中心にこのことをしっかりと据えて、今年度の事業計画を立案し、実施してゆきたいと願っている。

和泉短期大学の教育は建学の精神であるキリスト教信仰による、勤勉な社会人、忠実な職業人、実力のある実務者の養成により、より質の高い幼児教育と社会福祉の仕事に携わる人間の養成を目指してきたが、今年度も、このことの実現に大いに努力をしてゆきたいと願っている。このためにも、今年度も例年のように「**入学前教育**」に力を入れ、前年度に受講した学生の感想、その評価を生かして、今年度の新入生の入学準備に取り組んでいるところである。したがって、入学する学生たちはよりよい教育と技術の向上を担保されており、入学後、それぞれの学生が専門教育の知識と技術を真摯に体得し、就職後には、学生たちが少しでも現場での働きにおいて、**即戦力と倫理性のある職業人**であることを念願して、日々の教科の充実と実習に努めていきたいと願っている。

今年度は12年間、4期（1期が4年間）、和泉短期大学の学長であった伊藤忠彦氏が**任期満了**を迎えて退任し、新たに新学長として佐藤守男氏が新学長に選任されて、学長に就任されることになった。第7代の学長、伊藤忠彦学長のこれまでの良きご指導とお働きに対して、ここに、心からの感謝を申し上げたい。今年度からは、先生に新たに特任教授、チャプレンとしてご就任いただくことはまことに幸いなことである。

将来、子どもたちの保育**所**、幼稚園、児童福祉施設**など**で働きたいという新入生達の願いを実現させるために、和泉短期大学は今年度も、**教員と職員とが車の両輪**となり、よりよい**教育共同体、研究共同体を形成**しつつ、若い人々の夢を実現するための「**実力養成型**」の大学として、相模原地区の他の大学と協力し、この**地域の知の拠点**としての働きをなすために努めていきたいと願っている。

4年制大学の卒業生よりも、短期大学の卒業生は**25歳のキャリア像**を比較して、検討してみると、その差が歴然としている。職業人としては、20歳の短期大学卒業生が3年目以降、**急速な成長の伸び**を示していることが、キャリア・アップのデータにより確かに示されている。

今年度は前年度において、懸案の大きな事業を実施することが出来たので、**緊急性のある四つの事業**のみに取り組むこととしたい。

その**第一**は、現在の和泉短期大学の**キャンパス**を出来るだけ**コンパクトに整理**し、新しいキャンパスにするため、その**周辺の土地を取得するための検討**を始めることとしたい。

第二は、**校舎のトイレの改修工事**を早急を実施することとしたい。これまでの旧式のトイレから新しい、快適なトイレに改修することは、現在よりも更に居心地の良い学生生活をするために、最も必要なことであり、出来るだけ早く着手する予定である。

第三に、現在の1号館校舎、2号館（研究棟）の**屋上の防水工事の実施**である。幸いにも、校舎の耐震診断の結果は当分の間、大丈夫であり、心配がないということであるが、より**安全重視のため**にも早急に防水工事に着手する予定である。

第四に、2014年4月1日から消費税率が上がる問題である。消費税率は5%から8%の増税が実施される。したがって、本年度の予算案ではこのことを織り込んで予算案を作成する必要があり、事業計画の中に取り組むこととした。

結びに、今年度も例年のように、理事長としては理事会、評議員会に諮りつつ、**ガバナンス（管理、統括）**と、**コンプライアンス（法の遵守）**とを重視して、本学に課せられた大切な使命を力強く果たして参りたいと願っている。

何を実施するにしても、その際には必ず「**人、もの、経済**」を考えなければならないことは言うまでもないことである。特に、私立大学は短期大学を含めて定員割れは、教育が悪いからでなく、授業料で国公立大学に到底太刀打ちできないのが現状である。更に、大学数も、学部学生数も、**私立大学が80%を占めている**のにもかかわらず、2014年度の国家予算案において、国立大学の運営交付金は**1兆1300億円**です。しかし学生数が国立の3倍もある**私立大学**への経常費補助は僅か**3200億円**に過ぎないのが現状であることは誰もが知るところである。しかし私立大学の一つである和泉短期大学は、今年度も教育の内容を少しでも高めるために真剣に努力し、常に改革の精神を忘れずに、前進してゆきたい。

今年も益々少子化の進む中で、**学生に選ばれる大学を目指し**、努力してゆきたい。何事をするにも常にコスト意識をもって、熱心に対応してゆきたい。最後に、**教育環境充実資金**は当分、関係者の皆様のご理解とご協力を得て、今少し継続して実施してゆくこととしたい。

法人事業計画

○理 事 会

2014 年	5 月	24 日 (土)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2014 年	6 月	21 日 (土)	理事会	於：和泉短期大学
※評議員から選出された現理事が、評議員として再任された場合は開催しない				
2014 年	10 月	24 日 (金)	理事会 (予算骨子)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2015 年	3 月	20 日 (金)	理事会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○評議員会

2014 年	5 月	24 日 (土)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2014 年	6 月	21 日 (土)	評議員会	於：和泉短期大学
※評議員から選出された現理事が、評議員として再任された場合は開催しない				
2014 年	10 月	24 日 (金)	評議員会 (予算骨子)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2015 年	3 月	20 日 (金)	評議員会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○学内運営協議会

- 出席者：理事長、学長、チャブレン、事務局長、教務部長、その他、庶務ユニットリーダー

2014 年	4 月	9 日 (水)	4 月	16 日 (水)	4 月	23 日 (水)	4 月	30 日 (水)
	5 月	7 日 (水)	5 月	14 日 (水)	5 月	21 日 (水)	5 月	28 日 (水)
	6 月	4 日 (水)	6 月	11 日 (水)	6 月	18 日 (水)	6 月	25 日 (水)
	7 月	2 日 (水)	7 月	9 日 (水)	7 月	16 日 (水)	7 月	23 日 (水)
	7 月	30 日 (水)	9 月	3 日 (水)	9 月	10 日 (水)	9 月	17 日 (水)
	9 月	24 日 (水)	10 月	1 日 (水)	10 月	8 日 (水)	10 月	15 日 (水)
	10 月	22 日 (水)	10 月	29 日 (水)	11 月	5 日 (水)	11 月	12 日 (水)
	11 月	19 日 (水)	11 月	26 日 (水)	12 月	3 日 (水)	12 月	10 日 (水)
	12 月	17 日 (水)						
2015 年	1 月	7 日 (水)	1 月	14 日 (水)	1 月	21 日 (水)	1 月	28 日 (水)
	2 月	4 日 (水)	2 月	18 日 (水)	2 月	25 日 (水)	3 月	4 日 (水)
	3 月	11 日 (水)	3 月	18 日 (水)				

○学園行事

2014 年	4 月	21 日 (月)	イースター特別礼拝
	4 月	28 日 (月)	創立記念礼拝
	11 月	10 日 (月)	召天者記念礼拝
	12 月	1 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月	8 日 (土)	クリスマス・コンサート

2. 和泉短期大学

2014年度 事業計画

学長 佐藤 守男

本学は創立以来、キリスト教の建学の精神を基に、神より託されたこの教育と研究の働きを、神の御旨にかなよう、祈りつつ運営してきた。

今年も、大学を取り巻く社会状況の変化、少子化に伴う短期大学の学生定員充足率の低下と財政の悪化（短大の56.4%）、また経済の悪化等による中途退学者の増加が見込まれる。

本学は、これらの状況を見据え、キリスト教の建学の精神を基に、教学の充実、並びに学生支援の強化を一層進めて、神より託された本学の使命を果たして行く所存である。

1) 教職員体制

専任教員22名<専攻科3名>（前年比+1）学長、教授5名（±0）、特任教授2名（+1）、准教授10名（±0）、専任講師3名（+2）、助教1名（-2）、非常勤講師37名（-5）、事務職員28名（-2）（契約2名、非常勤職員13名）の体制で事業が進められる予定である。

2) 2014年度学生数

短期大学：2年生279名（+6）1年生267名（-27）専攻科24名（+5）で新しい年度を始めることができる見通しである。

3) 学生生活の向上にむけての支援

①入学前教育の充実

本学への入学許可された者が、入学前の12月より、月一度4回にわたって入学前教育を実施している。その中で建学の精神及び教育目標を学ぶと共に、漢字、文章作成、食生活や生活習慣チェック等を学び、新入生が、より高い動機づけ（モチベーション）をもって、本学の学生生活にスムーズに入れるよう努めてきた。

②保護者との連携

年2回、学期終了後、保護者にも成績一覧表を郵送し、授業の出席状況、各教科の成績、成績の順位等の学業状況を報告している。また、今年度は文化祭時に保証人会を開き、保護者とグループアドバイザーとの個別面談を行い、学生が学業に専心できるよう保護者にも協力を呼び掛ける予定である。

③退学、除籍、休学、留年学生の増加状況の改善への取り組み

増加しつつある学生の退学、除籍、休学等の改善に向けて、要因の調査と分析、高等学校との情報交換、グループアドバイザーを中心とした教職員のサポート体制の強化、現行の入試方法の点検、更なる奨学金の制度の充実等を図っていく予定である。

④FD&SD（ファカルティ&スタッフ）の強化

全教員は、学生による「授業に対する授業評価」を受け、教育力・学生指導力の向上に努めている。また、全教職員に専門家による講習会を行い、それぞれの専門分野における教育力、学生指導のあり方を学び、真摯で、ホスピタリティーをもった学生支援に努める所存である。

4) 第三者評価の実施

短期大学の質の保証と向上を目指し、1996 年度より自己点検・評価を実施してきた。2003 年に大阪キリスト教短期大学と相互評価をし、2007 年には短期大学基準協会による第三者点検・評価を受け、短期大学としての質の保証を表す認証評価を得ることができた。

しかし、全短期大学を対象に実施された第三者点検・評価は一巡し、新評価基準をもって、第二クール（第二期目）にはいった。、本学は今年度の第三者評価に向けて、教育、研究・学生支援、財政等の改善に努めつつ、時代の変遷に耐え、社会に貢献できる大学であり続けることを願っている。

5) 文科省の補助金事業

①2010 年度「就業力向上推進プログラム」について

2010 年本学が応募し採択された、文科省補助金事業「就業力向上推進プログラム」（5 年間）は、行政刷新会議の仕分けにより 3 年を残して 2011 年末をもって終えることになった。2011 年に発足したキャリア・デザイン・センターは職員の削減をせまられた。

②2012 年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の展開」について

2012 年新に文科省公募プログラム「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の展開」に、関東山梨地域の 14 大学（短大 2）との連携事業プログラムとして応募し、採択され、この助成金事業を展開している。補助金事業の一環としてキャリア・デザイン・センターを用いることができ、規模も回復し、保育就業力向上の取り組みにおいても大きな役割を果たしている。また、本学は、保育者の養成校として、幼稚園・保育園・児童福祉施設等の保育業界との連携を強化し、連絡会、研究会を開催し、学生の現場実習にあたっての情報交換・お願い・意見聴取に努めている。この事業を通して、保育業界のニーズを聴取し、本学の保育者養成教育に反映させ、改善整備して行く予定である。

③2014 年度「大学教育再生加速プログラム」について

文部科学省からの 2014 年度公募プログラム「大学教育再生加速プログラム」についても、学内にて現在応募を検討中である。

6) 卒業生の保育就業力向上への本学の取り組み

①幼稚園教諭免許状を有する者における保育士取得特例の講座の開催

2014 年度は、相模女子大学と協力して、幼稚園教諭免許状を有する者における保育士取得特例の講座を開催する。4 科目のうち 2 科目を夏休みに実施する予定である。

7) 入試・広報の改善と高等学校との連携の強化

昨年度の入試実施の成果を検証し、広報活動・入試方法、並びに、高等学校との連携の一層の強化（福祉・保育・幼児教育を目指す高校生への働きかけ等）に努めていく。

8) 進路（就職・進学）指導の充実

2 年生必修科目キャリアデザイン B（就職進学指導講座）をはじめ、グループアドバイザーを中心とした教職員の支援のもと、学生一人ひとりにあった進路先を指導していく。

9) 教職員間の更なる協力の必要性

本学の教育の本分を十分に発揮するため、また直面している種々の危機回避、克服のために、教職員間の信頼と教職員相互の協力に努力して行く。

10) 和泉短期大学父母会

今年度も、会報発行、給付奨学金による学生支援、和泉祭への参加、保護者関係の葬儀での献花、

卒業式のガウン貸し出しと保管、入学式時の父母会総会と父母懇親会開催、役員会の開催等、今年度も 2015 年度生の父母役員を加え、大学へのご協力を依頼する予定である。(担当部署：学生支援ユニット)

11) 同窓会いずみ

今年度も、総会&茶話会、和泉祭時の「いずみのひろっぱ」開催、会報「いずみ」発行、在学生への給付奨学金支援、本学のホームページの「同窓会からのお知らせ」「掲示板」の運用、また、本学と同窓生、また同窓生間の交流や情報発信等の働きを担っていただける見込みである。(事務所：2 号館 1 階)

(同窓生：児童福祉学科 15483 名、和泉福祉専門学校 2313 名、専攻科介護福祉専攻 91 名)

12) 後援会

今年度、「和泉短期大学の発展に寄与し、父母会活動を支援し、また相互修養と交流を図ることを目的とする」のもとに、「後援会便り」の発行、「いずみ祭」参加、役員のチャペルでのご奉仕等、ほぼ同じ体制で、ご支援いただける見込みである。

(担当部署：学生支援ユニット)

(1) 学事予定

2014 年	3 月	31 日 (月)	2 年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング
	4 月	1 日 (火)	入学式、全教員打合せ会
		2 日 (水)	1 年、専攻科前期オリエンテーション① 2 年、専攻科健康診断、教科書販売
		3 日 (木)	1 年、2 年新入生歓迎大会 専攻科前期オリエンテーション②
		4 日 (金)	1 年前期オリエンテーション② 2 年、専攻科前期授業開始
		5 日 (土)	1 年健康診断、教科書販売
		7 日 (月)	1 年前期授業開始
		21 日 (月)	イースター特別礼拝
		23 日 (水)	実習連絡会 (幼稚園)
		28 日 (月)	創立記念礼拝
	5 月	12 日 (月)	高校教員対象進学説明会①、避難・防災訓練 2 年現場実習 (幼稚園・児童福祉施設) 〈5 月 31 日 (土) まで〉
		14 日 (水)	高校教員対象進学説明会②
		24 日 (土)	介護技術講習会①
		25 日 (日)	介護技術講習会②
		31 日 (土)	介護技術講習会③
	6 月	1 日 (日)	介護技術講習会④
		9 日 (月)	専攻科介護実習 I 〈6 月 16 日 (月) まで〉
		11 日 (水)	実習連絡会 (児童福祉施設)
		13 日 (金)	市内高校保育・福祉担当教員研究会
		23 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園・児童福祉施設) 〈7 月 12 日 (土) まで〉
	7 月	8 日 (火)	かながわ高齢者福祉研究大会
		28 日 (月)	1 年前期定期試験 〈29 日 (火) まで〉
		30 日 (水)	1 年夏期休業開始 〈9 月 1 日 (月) まで〉 2 年夏期休業開始 〈8 月 31 日 (日) まで〉
		31 日 (木)	専攻科定期試験①
	8 月	1 日 (金)	専攻科定期試験②
		2 日 (土)	専攻科夏期休業開始 〈8 月 31 日 (日) まで〉
		20 日 (水)	1 年、専攻科成績報告書締切日
		28 日 (木)	おもちゃインストラクター養成講座 1 回目 〈2 回目 29 日 (金)〉
	9 月	1 日 (月)	1 年一般教養試験対策講座、2 年前期授業再開、 専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 再試験発表、教科書販売
		2 日 (火)	1 年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、再試

		験発表、教科書販売、専攻科後期授業開始	
9 月	3 日 (水)	1 年ボランティアウィーク 〈9 月 11 日 (木) まで〉 1 年一般教養試験対策講座 〈9 月 6 日 (土) まで〉	
	8 日 (月)	1 年前期再試験日 〈9 日 (火) まで〉 専攻科前期再試験日 〈9 日 (火) まで〉	
	12 日 (金)	1 年後期授業開始、2 年前期定期試験 〈13 日 (土) まで〉 専攻科実習連絡会	
	13 日 (土)	介護福祉士筆記試験対策講座①	
	16 日 (火)	2 年現場実習 (保育所・児童福祉施設) 〈10 月 2 日 (木) まで〉	
	24 日 (水)	2 年成績報告書締切日	
10 月	3 日 (金)	2 年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 再試験発表、教科書販売	
	6 日 (月)	2 年後期授業開始	
	18 日 (土)	専攻科入試 i 日程、介護福祉士筆記試験対策講座②	
	24 日 (金)	学生祭週間 〈27 日 (月) まで〉	
	25 日 (土)	いずみ祭、個別相談会⑧、⑨ 〈26 日 (日) まで〉	
11 月	1 日 (土)	入学者選考日 [指定校、卒業生・在学生家族、キリスト教推薦、iAO (A 日程)]	
	4 日 (火)	専攻科介護実習Ⅱ 〈12 月 6 日 (土) まで〉	
	10 日 (月)	召天者記念礼拝	
	15 日 (土)	介護福祉士筆記試験対策講座③	
	19 日 (水)	専攻科帰校日	
	22 日 (土)	公募・専門高校推薦、社会人入試	
	29 日 (土)	図書館主催行事 介護福祉士筆記試験対策講座④	
12 月	1 日 (月)	クリスマスツリー点火祭	
	3 日 (水)	実習連絡会 (保育所)	
	13 日 (土)	専攻科 B 日程入試、介護福祉士筆記試験対策講座⑤	
	22 日 (月)	クリスマス礼拝	
	23 日 (火)	冬期休業開始 〈2015 年 1 月 5 日 (月) まで〉	
2015 年	1 月	6 日 (火)	後期授業再開
	9 日 (金)	1 年後期授業終了	
	13 日 (火)	1 年後期定期試験 〈14 日 (水) まで〉	
	15 日 (木)	1 年現場実習 (保育所) 〈30 日 (金) まで〉	
	26 日 (月)	1 年科目成績報告書締切日	
2 月	3 日 (火)	2 年後期定期試験 〈4 日 (水) まで〉	
	4 日 (水)	1 年後期再試験発表、専攻科後期授業終了 一般入試、C 日程入試	

2月	5日(木)	2年追・再実習追加分(幼稚園)〈9日(月)、10日(火)まで〉 専攻科後期定期試験〈6日(金)まで〉
	6日(金)	2年後期授業終了
	9日(月)	1年後期再試験〈10日(火)まで〉
12月	(木)	1年保育実習(児童福祉施設)〈2月27日(金)まで〉 2年追再実習〈2月27日(金)まで〉
	16日(月)	2年、専攻科成績報告書締切日
	18日(水)	専攻科卒業生共通試験
	19日(木)	2年、専攻科後期再試験発表 専攻科卒業試験講習会〈20日(金)まで〉
	23日(月)	専攻科卒業共通試験再試験
	25日(水)	2年、専攻科後期再試験
3月	2日(月)	専攻科D日程入試
	3日(火)	2年追再実習者再試験
	4日(水)	おもちゃインストラクター養成講座〈5日(木)まで〉
	16日(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝・修了証書授与式予行練習
	17日(火)	2年卒業証書・学位記授与式 専攻科修了証書授与式
	31日(火)	1年前期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング

(2) 実習

2014年	5月	12日(月)	～5月31日(土)	2年幼稚園・児童福祉施設
	6月	9日(月)	～6月16日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	6月	23日(月)	～7月12日(土)	2年幼稚園・児童福祉施設
	9月	16日(火)	～10月2日(木)	2年保育所・児童福祉施設
	11月	4日(火)	～12月6日(土)	専攻科介護実習Ⅱ
2015年	1月	15日(木)	～1月30日(金)	1年保育所
	2月	5日(木)、 12日(木)	9日(月)、10日(火) ～2月27日(金)	2年追再実習追加分(幼稚園) 1年児童福祉施設、2年追再実習

(3) 2015 年度 児童福祉学科入試日程

2015 年度 児童福祉学科 入試日程

IAO 入試 I 期

2014 年 6 月 2 日(月)～7 月 5 日(土)16 時 34 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回目面談申込期間
2014 年 7 月 12 日(土) 午前・午後	1 回目面談 A・B
2014 年 6 月 2 日(月)～7 月 12 日(土)16 時 41 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2 回目面談申込期間
2014 年 7 月 19 日(土) 午前・午後	2 回目面談 A・B
2014 年 6 月 2 日(月)～7 月 19 日(土)16 時 48 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	3 回目面談申込期間
2014 年 7 月 26 日(土) 午前・午後	3 回目面談 A・B
2014 年 7 月 28 日(月) 12 時 15 分	出願許可判定教授会
2014 年 7 月 29 日(火)	出願許可通知発送日
2014 年 8 月 1 日(金)～8 月 27 日(水) 27 日間	出願手続期間
2014 年 9 月 1 日(月) 12 時 15 分	合否判定教授会
2014 年 9 月 2 日(火)	合格通知発送日
2014 年 9 月 3 日(水)～9 月 12 日(金) 10 日間	入学手続期間

IAO 入試 II 期

2014 年 7 月 1 日(火)～8 月 2 日(土)16 時 33 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回目面談申込期間
2014 年 8 月 8 日(金) 午前・午後	1 回目面談 A・B
2014 年 7 月 1 日(火)～8 月 8 日(金)16 時 39 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2 回目面談申込期間
2014 年 8 月 19 日(火) 午前・午後	2 回目面談 A・B
2014 年 7 月 1 日(火)～8 月 18 日(月)16 時 49 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	3 回目面談申込期間
2014 年 8 月 25 日(月) 午前・午後	3 回目面談 A・B
2014 年 9 月 1 日(月) 12 時 15 分	出願許可判定教授会
2014 年 9 月 2 日(火)	出願許可通知発送日
2014 年 9 月 3 日(水)～9 月 19 日(金) 17 日間	出願手続期間
2014 年 9 月 24 日(水) 14 時 50 分	合否判定教授会
2014 年 9 月 25 日(木)	合格通知発送日
2014 年 9 月 26 日(金)～10 月 6 日(月) 11 日間	入学手続期間

IAO入試Ⅲ期

2014年8月1日(金)～9月20日(土)16時 51日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1回目面談申込期間
2014年9月27日(土) 午前・午後	1回目面談A・B
2014年8月1日(金)～9月27日(土)16時 58日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2回目面談申込期間
2014年10月4日(土) 午前・午後	2回目面談A・B
2014年10月6日(月) 12時15分	出願許可判定教授会
2014年10月7日(火)	出願許可通知発送日
2014年10月8日(水)～10月17(金) 10日間	出願手続期間
2014年10月29日(水) 14時50分	合否判定教授会
2014年10月30日(木)	合格通知発送日
2014年10月31日(金)～11月10日(月) 11日間	入学手続期間

IAO入試Ⅳ期(12月)

実施するか否かを2014年11月10日(月)10時にホームページで発表する。

2014年11月10日(月)～12月6日(土)16時 27日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	面談申込期間
2014年12月13日(土) 午前・午後	面談A・B
2014年12月17日(水) 14時50分	出願許可判定教授会
2014年12月18日(木)	出願許可通知発送日
2014年12月19日(金)～1月16日(金) 29日間	出願手続期間
2015年1月28日(水) 14時50分	合否判定教授会
2015年1月29日(木)	合格通知発送日
2015年1月30日(金)～2月9日(月) 11日間	入学手続期間

iA0入試Ⅳ期(1月)

実施するか否かを2014年12月1日(月)10時にホームページで発表する。

2015年1月6日(火)～1月17日(土)16時 12日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	面 談 申 込 期 間
2015年1月24日(土) 午前・午後	面 談 A ・ B
2015年1月28日(水) 14時50分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015年1月29日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015年1月30日(金)～2月13日(金) 15日間	出 願 手 続 期 間
2015年2月18日(水) 12時15分	合 否 判 定 教 授 会
2015年2月19日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2015年2月20日(金)～3月2日(月) 11日間	入 学 手 続 期 間

A0入試Ⅳ期(2月)

実施するか否かを2015年1月16日(金)10時にホームページで発表する。

2015年2月2日(月)～2月9日(月)16時 8日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	面 談 申 込 期 間
2015年2月16日(月) 午前・午後	面 談 A ・ B
2014年2月18日(水) 12時15分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015年2月19日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015年2月20日(金)～2月27日(金) 8日間	出 願 手 続 期 間
2015年3月4日(水) 12時15分	合 否 判 定 教 授 会
2015年3月5日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2015年3月6日(金)～3月11日(水) 6日間	入 学 手 続 期 間

iA0入試Ⅳ期(3月)

実施するか否かを2015年2月2日(月)10時にホームページで発表する。

2015年2月10日(火)～2月23日(月)16時 21日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	面 談 申 込 期 間
2015年3月2日(月) 午前・午後	面 談 A ・ B
2015年3月4日(水) 12時15分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015年3月5日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015年3月6日(金)～3月13日(金) 8日間	出 願 手 続 期 間
2015年3月18日(水) 14時50分	合 否 判 定 教 授 会
2015年3月19日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2015年3月20日(金)～3月25日(水) 6日間	入 学 手 続 期 間

指定校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦

2014年10月9日(木)～10月17日(金)16時 9日間 郵送は15日(水)消印有効。窓口は17日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2014年10月29日(水) 14時50分	打 合 せ 教 授 会
2014年11月1日(土) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2014年11月1日(土) 午後	判 定 教 授 会
2014年11月2日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2014年11月4日(火)～11月14日(金) 11日間	入 学 手 続 期 間

公募推薦、専門高校推薦、社会人特別選抜

2014年10月20日(月)～11月14日(金)16時 26日間 郵送は12日(水)消印有効。窓口は14日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2014年11月19日(水) 14時50分	打 合 せ 教 授 会
2014年11月22日(土) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2014年11月22日(土) 時間未定	判 定 教 授 会
2014年11月23日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2014年11月24日(月)～12月5日(金) 12日間	入 学 手 続 期 間

一般入試

2015年1月8日(木)～1月30日(金)16時 23日間 郵送は29日(水)消印有効。窓口は31日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2015年2月4日(水) 午前	入 学 試 験 日
2015年2月4日(水) 時間未定	判 定 教 授 会
2015年2月5日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2015年2月6日(金)～2月18日(水) 12日間	入 学 手 続 期 間

3. 専攻科

2014年度 専攻科介護福祉専攻の事業計画

1. 教育内容

(1) 教育の充実

- ① 専任教員担当科目の教授内容の確認
- ② 2015年度「介護福祉士国家試験対策」準備と、それに伴う時間割の検討
- ③ 2015年度「医療的ケア」開講の準備と、それに伴う時間割の検討
- ④ 児童福祉学科科目の担当

(2) 実習の充実

- ① 施設見学実習の実施
- ② 学生個々に応じた実習指導の充実
- ③ 実習成果物である事例研究の指導
- ④ 実習巡回指導の充実
- ⑤ 実習連絡会の開催

2. 就業力支援

- (1) キャリアファイルへの取り組みとその評価
- (2) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (3) 卒業生による職場体験講義
- (4) 特別講義

3. 介護福祉士資格取得支援

- (1) 介護技術講習会
- (2) 介護福祉士国家試験筆記試験対策

4. 相模原市内の介護職員のスキルアップ支援

相模原市高齢者福祉協議会主催の介護職員研修へに協力

5. 地域貢献活動

市民大学への協力

6. 卒業生への再教育支援の検討

2015 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

i 日程 (学内、卒業見込者対象)

2014 年 10 月 3 日 (金)～10 月 14 日 (火) 16 時 12 日間	願 書 受 付 期 間
2014 年 10 月 18 日 (土) 午前	入 学 試 験 日
2014 年 10 月 22 日 (水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2014 年 10 月 23 日 (木)	合 否 通 知 発 送 日
2014 年 10 月 24 日 (金)～11 月 13 日 (木) 21 日間	入 学 手 続 期 間

A 日程

2014 年 10 月 15 日 (水)～10 月 24 日 (金) 16 時 10 日間	願 書 受 付 期 間
2014 年 11 月 1 日 (土) 午前	入 学 試 験 日
2014 年 11 月 1 日 (土) 午後	合 否 判 定 教 授 会
2014 年 11 月 2 日 (日)	合 否 通 知 発 送 日
2014 年 11 月 4 日 (火)～11 月 14 日 (金) 11 日間	入 学 手 続 期 間

B 日程

2014 年 11 月 14 日 (金)～12 月 3 日 (水) 16 時 20 日間	願 書 受 付 期 間
2014 年 12 月 13 日 (土) 午前	入 学 試 験 日
2014 年 12 月 17 日 (水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2014 年 12 月 18 日 (木)	合 否 通 知 発 送 日
2014 年 12 月 19 日 (金)～12 月 26 日 (金) 8 日間	入 学 手 続 期 間

C 日程

2015 年 1 月 22 日 (木)～1 月 30 日 (金) 16 時 9 日間	願 書 受 付 期 間
2015 年 2 月 4 日 (水) 午前	入 学 試 験 日
2015 年 2 月 4 日 (水) 時間未定	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 2 月 5 日 (木)	合 否 通 知 発 送 日
2015 年 2 月 6 日 (金)～2 月 20 日 (金) 15 日間	入 学 手 続 期 間

D 日程

2015 年 2 月 16 日 (月)～2 月 27 日 (金) 16 時 12 日間	願 書 受 付 期 間
2015 年 3 月 2 日 (月) 午前	入 学 試 験 日
2015 年 3 月 4 日 (水) 時間未定	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 3 月 5 日 (木)	合 否 通 知 発 送 日
2015 年 3 月 6 日 (金)～3 月 13 日 (金) 8 日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。2014 年度委員会メンバーは、伊藤忠彦、櫻井奈津子、井狩芳子、山本正司、平塚豊、今泉治子、芹澤薫

3. 活動内容

3-1 年間聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるようともに礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神である「愛と奉仕」をともに学ぶことを目的とし、毎週月曜日にチャペルアワーを計画し実施する。始業礼拝、卒業・修了感謝礼拝を除き、前期 15 回・後期 15 回のチャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 21 日）
- 2) 創立記念礼拝（4 月 28 日）
- 3) 召天者記念礼拝（11 月 10 日）
- 4) クリスマスツリー点火祭（12 月 1 日）
- 5) クリスマス礼拝（12 月 22 日）
- 6) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 16 日）

3-5 新入生研修会

4 月 2 日に新入生研修会を実施する。レクチャー礼拝と講演を通して、今後の学びの礎を築く。（講師：久米小百合氏）

3-6 クリスマスコンサート（子育てサロンはっぴいと共催）

12 月 6 日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッププログラム、及び全国の児童福祉施設等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ（I.C.F.）

聖書やキリスト教に基づく物語などを学び合い、創作や発表を企画しを通して学生同士の交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともに音楽に親しむとともに、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕を中心に活動する。練習しチャペルアワー、学内諸行事にて奉仕する。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での奉仕演奏、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 チャペルメッセージ集の作成

2013年度チャペルアワーでの説教・奨励を集めた小冊子を作成し、学生・教職員等に配付する。

3-12 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

3-12 「IZUMI NEWS」への寄稿と「宗教部便り」発展的解消

年間聖句の紹介を初めとする聖書の御言葉の紹介や新入生研修会・特別礼拝・クリスマス関連行事等の宗教部活動を適宜「IZUMI NEWS」に連載し、本学ホームページのトピックス等で報告していく。年間を通した広報活動を充実させることと、チャペルメッセージ集の作成に併せ、従来年1回発行していた「宗教部便り」の発行を終了する。

4. 2014年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

チャペルアワーは出席することが当たり前という雰囲気を作ることを目指し、学生に浸透させていく。宗教部からだけでなく学生相互の働きかけが起こるようにチャペル委員にレクチャーする。また、キャリアカルテファイルを活用や、他教員の協力を得て授業等でも働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

4-2 チャペルメッセージ集の作成

学生にとって、チャペルアワーを身近に感じてもらうための広報誌として、前年度の説教・奨励を集めて小冊子を作成し、配付する。

4-3 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員、学生聖歌隊、I.C.F.の活動を安定的に継続していくことをめざす。さらに、活動を通して神様の恵みを知り、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように、促し支える。

4-4 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教主義学校として、地域への貢献度を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、授業科目「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」の学外での依頼演奏などを通じ、地域にあるキリスト教主義学校として、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研 究 活 動

佐 藤 守 男 教授

- 【研究課題】 ・ 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究
・ 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について

- 【教育課題】 ・ 造形表現等の教材研究

- 【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

伊藤忠彦 特任教授・チャプレン

- 【研究課題】 ・ 「ジョン・ウエスレーとメソジスト教会」
・ 「使徒言行録に記されたパウロの伝道」
- 【教育課題】 ・ 「学生が、チャペルとキリスト教関連の授業を通じて、保育、教育、福祉を必要とする人々の力になる者に成長することが課題である」
- 【学会参加予定】 ・ キリスト教社会福祉学会・日本キリスト教学会の会員であるが、参加予定はない。
- 【社会的活動】 ・ 社会福祉法人 白十字会林間学校理事長
・ 社会福祉法人 さがみ愛育会理事
・ 社会福祉法人 悠朋会理事
・ 社会福祉法人 基督教児童福祉会評議員
・ 学校法人 桜美林学園評議員

杉 山 佳 子 特任教授

- 【研究課題】
「子育て家族の支援とソーシャルワーク」
「認知症高齢者と家族への支援方法について」

- 【教育課題】
保育士養成教育における相談援助

- 【学会参加予定】
日本介護福祉学会
日本社会福祉学会
日本社会病理学会
日本ソーシャルワーカー協会

- 【社会的活動】
豊島区立東部子ども家庭支援センター 専門相談員
社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念ホーム 監事
社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 理事
日本ソーシャルワーカー協会 監事

鈴木 敏彦 教授

- 【研究課題】 ・ 戦前期・経済保護事業に関する史的研究
・ 福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究
- 【教育課題】 ・ 短期大学における入学前教育・初年次教育のあり方について
・ 短期大学における退学防止に関する方策について
・ 児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について
- 【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、
日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、
日本居住福祉学会、日本住宅会議、日本社会福祉教育学会、大学教育学会、
初年次教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、
成年後見法学会、社会保障法学会、日本高齢者虐待防止学会 ほか

武石 宣子 教授

- 【研究課題】 ・ リトミック教育に関する研究
・ 音楽療法に関する研究
・ ソルフエージュの研究
・ 即興演奏の研究
・ プラスティック・アニメの研究
・ 身体表現を通じた音楽理解への可能性
・ 保育の表現技術について
・ カリキュラム研究《リトミック、器楽（ML・ピアノ）、保育内容（表現）》
・ ML導入に向けた新カリキュラム研究
- 【教育課題】 ・ リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ
・ 器楽（ML・ピアノ）の授業《ML：子どもの歌、鍵盤楽器による基礎技能》
・ 親子リトミック（親子ふれあい遊び）の指導方法の充実
・ 教育法：《ダルクローズ・リトミック》

【所属学会等】

- 大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会
○日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会
○日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会
○初年次教育学会 ○日本レジャー・レクリエーション学会
○全日本ピアノ指導者協会 ○アクティビティ・サービス協議会
○幼児音楽研究会 ○学校伝道研究会

櫻井 奈津子 教授

- 【研究課題】 ・ 家庭養護推進の課題
「養育里親」「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）」を対象とした支援活動において、児童相談所や児童福祉施設のワーカーの資質として求められているものを明らかにしながら、里親支援に携わるワーカーの養成

についての研究活動を行う。

・要保護児童への自立支援

NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業、里親里子の交流事業等の活動への参加を通し、児童養護施設入所児童、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、自立支援への研究を行う。

【教育課題】 ・担当科目（児童家庭福祉・社会的養護の原理・社会的養護の内容・子どもと暮らし）の内容充実。

学生にとって具体的に理解しやすい教材（ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題の提供を通して、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題について理解を促してゆく。

「児童家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、社会福祉サービスのあり方について学びを深め、学生が「援助者」として望ましい子ども観を確立していかれるよう働きかけてゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解すると共に、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「社会的養護の内容」では、子どもと生活を共にし、生活の中での援助をめざす保育者としての子ども理解を促し、併せて子どもにとってより望ましいケアのあり方を、グループ討論やグループでの作業を通して学び、保育実習Ⅰ（児童福祉施設）への事前学習と連動させて授業を展開する。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考えて、実践的な学びを深める。選択科目であるため、履修者の状況により授業内容に柔軟性をもたせたい。

・実習指導の充実。

実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前の準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。

担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに単位修得が困難な学生への個別対応を丁寧に行う。

・教科書等教材作成

社会的養護、児童家庭福祉分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】 ・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 東京都委託事業平成26年度里親認定前研修 講師、相模原市養育里親更新研修 講師 等）

・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動、高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。

- ・相模原市における児童福祉活動への協力（社会保障審議会児童福祉専門分科会等の委員会活動・養育里親更新研修等への協力）
- ・東京都八王子児童相談所里親委託等推進委員会委員
- ・第三者委員活動
 - 社会福祉法人あすはの会 在宅福祉サービス部みしょう
 - 社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会 母子生活支援施設グリーンヒル相模原

【参加予定学会】 日本子ども家庭福祉学会（新潟）
 日本子ども虐待防止世界会議（名古屋）
 日本児童養護実践学会

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

- ① 継続的に研究をし、2013 年度に終了した「保育園児と幼稚園児の“あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得プロセスに関する研究」について、その成果をふまえた保護者支援と学生支援の具体の模索。
 - ② ①の課題について検証をおこなうために、再調査に向けた始動をする。
- ＊ 協力園と団体（予定）：神奈川県内の保育所・幼稚園・冒険遊び場等

【教育課題】

- ① 「保育内容『健康』」：ア、1 年生の履修科目を鑑み、特に前期履修学生に対しては興味喚起のためトピックスを多く提示する。イ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ねる。場合によっては、前期の到達目標をスリム化する。ウ、各回の授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる。エ、昨年度最終講義には知識定着の一定の成果が得られたので、更に学生の知識の実態把握に努め、本学学生の理解促進のための伝達力を磨く。オ、キャリア・ファイル・カルテの健康チェック欄と連動を図る。カ、座席指定の導入を考える。
- ② 「乳幼児体育」：我国の「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多い中、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に運動あそびの指導が出来る事」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる授業をおこなう。「ヒトが育つために、何故“運動あそび”が必要なのか」という視点に立って、半期の授業構成の初期は乳児対象・中盤以降は幼児対象とし、仕上げるには、部分指導案や簡単な年間プログラム作成もおこなう。また、日本発育発達学会が設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の内容や、文部科学省が作成した幼児期運動指針も取り入れながら、“学生自身が「からだでわかる」”授業を展開する。
- ③ 「体育（実技）」：学生に対し、保育者に必要な基本的な体力と、併せて、体力の基本となる、自身の日常生活について、自己課題をもつ事を恒常的に勧める。また、引き続き、体育実技担当者全員で、養成校としての体育科目のあり方を踏まえた教材の検討をすすめる。実施場所について、恵まれた教育環境（体育館・戸外）を十分に生かす授業内容を計画する。

「体育（理論）」：現代健康課題・健康観を提示したうえで、学生自身が一生にわたって「自身を生かす体力の視点とは何か」について考える機会を提供する。

④保育・教育実践演習：担当2年目を迎えるにあたり、学生からの授業評価や他の教員のアドバイス等も取り入れながら、少しずつ専門分野を生かした授業を展開したい。

⑤実習指導・グループ担任：生活全般や現場実習に対して強い不安感や困難を抱く学生が増加する中、可能な範囲で学生の気持ちを汲み取る努力をしたい。自身の重要課題として、今の日本の社会情勢を把握することや、若い世代の文化にも興味をもちつつ、自身のストレスを上手くコントロールする術の習得し、ひいては、その術を学生と共有する力をつけたい。1年生終了頃に概ね学生らしい生活が出来るような支援をしたい。

【主な社会活動】

- ・「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
- ・「幼少年体育指導士（日本発育発達学会認定資格）」認定講座実行委員会委員
- ・「神奈川県相模原市男女協同参画課諮問委員会」会長
- ・「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・「NPO法人 セルフケア総合研究所」 理事
- ・「社会福祉法人 歩育の会」 理事

【参加予定学会】

- ・ 日本保育学会（5月）
- ・ 日本小児保健学会（10月）
- ・ 子どものからだと心・全国研究会議（12月）
- ・ 日本発育発達学会（3月）

横 川 剛 毅 准教授

【研究課題】 ・障がいのある人への虐待防止と適切な支援

・障がいのある人の支援者のセルフマネジメント

【教育課題】 ・対応が難しい子への適切に向き合うことができる保育者・支援者の養成

・障がいに関する正しい知識をもち、実践できる保育者・支援者の育成

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本地域福祉学会

松 浦 浩 樹 准教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）継続研究
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
3. キリスト教保育の現状と課題
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2010年まで）
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題
8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学内で関与す

る学生、保護者（親子）との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・ 短大における学び・保育者への学びについての態度形成について、新入生に対してグループ指導並びに「教育原理」の授業の中で実践していくこと。さらに、今年度は「2年生と1年生の学習促進のための有機的関係の再構築」を目指す(保育実習)。また保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相関させるプログラムの開発と工夫
- ・ 「キリスト教保育」、「保育者論」、「保育内容・人間関係」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を学生に還元し、人間現象を考察する力を促進する。
- ・ 担当グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援など個別指導について

【参加予定学会等】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 日本キリスト教教育学会
- ・ 子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・ OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
- ・ 幼児保育実践研究会
- ・ キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
- ・ 保育実践研究委員会・副委員長
- ・ 幼児教育養成課程研究会(文科省重点課程研究)

【地域貢献】

- ・ 子育てサロン「はっぴい」の運営
- ・ キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・ 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
- ・ 保育所指定管理者選定・および第三者評価委員(東京・荒川区、座間市)

【その他委員会等】

- ・ 実習・ボランティアセンター長として、2013年度導入した「ふれあい体験」にて、保育所との有機的な連携を目指し、実習・ボランティアの授業内容に現場のニーズを還元し、内容の質をより充実させていく。また保育実習の授業において、新たに1年生が2年生の授業に参画し、「2年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1年生の意欲や動機を高める工夫をしてゆく。
- ・ 子育て支援プログラム運営委員として、委員会とサロンの運営と充実に向けて
- ・ 「保育就業力支援プログラム」の開発担当者として、CD委員を基にキャリアファイル等の教材開発・更新、あるいは今後の委員会運営と改善を執り行う。
- ・ キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献の新たな可能性を探り、2013年度は『特別教室』の企画とプロモートをしてきた。2014年度は、これらの実際を省察しながら、より質の高い「自学」の姿勢を構築する
- ・ 実習・ボランティア委員として、学生の実習学習支援に立ったカリキュラムの見直しと

検討、2013 年度新たに作成した「指導手引書」（教員用）を刷新し、より充実した内容となるように努める。

（入学前教育・キャリアデザインを視野に入れ、建学の精神（アドミッションポリシー）に根差した総合的・系統的学びとして連携する実習授業の工夫）

矢 野 由佳子 准教授

- 【研究課題】 ・ 保育者のメンタルヘルスに関する調査研究
・ 乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査
- 【教育課題】 ・ 子どもや保護者の心理に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成
・ 心身の健康を管理できる保育者の育成
- 【学会参加予定】 日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

平田 美智子 准教授

- 【研究課題】 ・ 国際養子縁組と民間養子縁組機関に関する研究（平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金事業 予定）研究代表者 林康弘 分担研究者
・ 里親支援（里親支援専門相談員）に関する調査研究
・ 在日外国人支援者の研修に関する研究
・ 女性のキャリア教育（個人研究）
- 【教育課題】 ・ キャリアデザイン教育（キャリアデザイン委員会として）
・ 子育て支援者となる学生・地域ボランティアの育成
・ 学生の児童虐待防止オレンジリボン・キャンペーン運動の推進
・ 学生のボランティア活動支援（北里大学との共同 PBL）
- 【学会参加予定】
 - ・ IFSW（国際ソーシャルワーカー連盟）世界会議・総会（7 月 5～11 日、オーストラリア、メルボルン市）
 - ・ 日本社会福祉学会（11 月 29/30 日、早稲田大学）（口頭発表予定）
- 【地域貢献】
 - ・ 相模原市子ども家庭相談課と協働で児童虐待防止推進月間（11 月）推進
 - ・ 相模原市の障がい者施設と協働で学生・障がい者の交流（松が丘園とパン販売）
 - ・ 相模原中央支援学校と学生の交流事業（7 月、ふれあい事業にボランティアサークルが参加）
 - ・ 横浜市地域子育て支援拠点（NPO 法人グリーンママ）支援（専門相談員）
- 【社会的活動】
 - ・ 公益社団法人日本社会福祉士会（国際・滞日外国人支援委員会委員長）
 - ・ 国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）アジア太平洋地域 役員（会計）
 - ・ 横浜市地域子育て支援拠点（NPO 法人グリーンママ）理事・専門相談員
 - ・ 「養子と里親を考える会」（研究会）理事

- ・ 座間市地域包括支援センター・地域密着型運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会 委員(学識経験者)
- ・ (社福)相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター意見交換会出席

山 本 美貴子 准教授

- 【研究課題】
- ・ 自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
 - ・ 「保育の中での音楽に関わる授業研究」
学生の意識調査結果の分析・考察を通して、学生がどのように子どもの表現の概念を学ぶかを探る
 - ・ 子どもの表現を育むため「保育者研修」について
園内研修内容を省察し、子どもとの生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための 保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る
 - ・ 和泉短大生が取り組む実習や採用試験のピアノ・音楽表現の課題についての傾向を探る調査の実施を探る
- 【教育課題】
- ・ 「保育音楽」の授業内容と方法について
前期 子どもの遊び歌・ゲームなどの演習と、後期 遊び歌の創作演習
課題とのより密接で効果的な展開を探る。2013 年度は後期創作課題の音楽形式・発表方法などを変更したので、期末課題などを参考に学生の学習成果・感想と照らし省察する。
 - ・ 「子どもと表現Ⅰ」の授業内容と方法について
この数年、非常勤担当教員との共通シラバスにより子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する授業を展開している。2013 年度も、共通シラバス・各教員の省察・学生の反応を基に、音楽・表現に関する教育内容を活発に討議しつつ充実した授業実践を行えているので、引き続き、課題設定・環境整備・教材準備方法を改善する予定。
 - ・ 「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について
宗教部と連携した一連のクリスマス行事での賛美に大きな手応えを得られ、5 名以上の 1 年生入隊希望者を得ることに結びついた。2014 年度は更に学生にとって魅力的・主体的な聖歌隊活動、曲・声部編成などを工夫する。昼休みの短い時間での楽しく有意義な練習が課題であるが、2014 年度に導入した AudioVisual 機器を活用、宗教部から提供していただいた映像を参考にした練習活動を取り入れたい。
 - ・ 複数教員での担当科目「保育・教育実践演習」の授業内容と方法について
2013 年度に新しく導入した授業・課題内容について省察。2014 年度から新たに加わる授業担当者と共に、改善に取り組み、より 2 年間の学びの定着と就業力育成に有効な教育プログラムの推進を図りたい。
 - ・ グループ運営の充実と 個別学生指導について

実習ボランティアセンターからの指導内容ガイド・カルテファイル・Lグループ用に作成している補助教材（プリント・学習段階の設定）を更にリンクさせて、現場実習を充実させるための授業展開を探る

【学会参加予定】 日本保育学会（5月） 日本音楽教育学会（10月）
日本乳幼児教育学会（11月）

大 下 聖 治 准教授

【研究課題】

- ① 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
- ② 運動技術の方法的運動系列に関する検討
- ③ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究

【教育課題】

- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
- ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
- ③ 子どもの遊びや運動に積極的に関わり、工夫できる保育者の育成
- ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
- ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本保育学会

【社会的活動】

- ① 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
- ② NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進

片 山 知 子 准教授

【研究課題】 1) キリスト教に基づく保育の考察

- ① キリスト教保育の実践研究
- ② 保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築
- ③ 1960年代前後におけるキリスト教保育の歩みを調査

2) 持続可能な発展（ESD）の幼児教育

文科省科研費による共同研究に参加
「地域コアステーションとしての新しい保育モデル
の構築と価値・機能の検討」

3) 「環境を通して行う保育」の実践的考察

4) 子育て支援の取り組みと展望の検証

1)－①継続して行う

1)－②2014年3月和泉短期大学紀要にて発表。引き続き継続する

1)－③2014年5月日本保育学会にて研究成果の一部を発表。引き続き継続する

2)報告まとめの作業に取り掛かる

3)2014年3月和泉短期大学紀要にて共同研究発表。引き続き継続

4)2014年3月和泉短期大学紀要にて和泉短期大学子育て支援に関する共同研究発表。

引き続き継続

【教育課題】 1) 担当各教科の指導内容の工夫と充実

2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら
専門職への学びができるよう援助する

3) CDC および学内施設を有効に活用し専門職教育の充実を図る

【学会参加予定】 日本保育学会

(5月大阪総合保育大学開催：研究論文ポスター発表で参加)

OMEF 日本委員会総会

(OMEF 日本委員会個人会員および団体会員理事)

キリスト教教育学会

キリスト教保育連盟夏期講習会

(7月広島開催、理事・講習会委員長)

乳幼児教育学会

【地域貢献】 相模原市子ども・子育て会議副会長

一般社団法人キリスト教保育連盟理事・講習会委員長

キリスト教保育連盟神奈川部会加盟園での研修協力

横浜市幼稚園協会加盟園での研修協力

近隣地域高校での模擬授業

相馬靖明 准教授

【研究課題】

1. 2015年度からスタートする子ども・子育て支援法の下では、一定数の幼稚園保育所からの幼保連携型認定こども園への転換が予想される。そこへ向けて、多くの地域で幼保合同の教職員研修が実施され、幼保共通カリキュラムが作成されている。今年度は、各地の幼保合同研修の企画者への聞き取り調査を行い課題を明らかにする。

2. 保育者の成長契機の研究

保育者は自らの成長につながる学びをどのように構築しているのかについて、聞き取り調査をもとに考察している。今年度は、職場の関係性から離れ、自発的に「研究会」へ参加した若手保育者への聞き取り調査を行い、保育者の成長との関連を明らかにする。

【教育課題】

1. 「言語表現」授業実践を通して、就業につながる力を育成すること。

2. 学生の実態から、キャリアファイルの取り組みのブラッシュアップを行う。

【参加予定学会】

1. 日本保育学会（2014年5月）
2. 子どもと保育実践研究全国大会（2014年8月）
3. 全国保育士養成協議会研究大会（2014年9月）
4. 日本教育工学会全国大会（2014年9月）

【社会活動】

1. 子どもと保育総合研究所（研究大会・セミナーなどの企画運営）
2. 公益財団法人鉄道弘済会こうさいセミナー東北ブロック年間講師
3. 新たな保育士資格を考える研究会
4. 特定非営利法人福祉評価総合機構「待機児童対策及び子育て新制度に関する提言」協力者

戸 塚 恵 子 准教授

- 【研究課題】
- ・ 保育現場の健康課題と保育者の対応について
 - ・ 子育て支援における地域の人材育成と医療・保健・福祉の連携について
 - ・ 高齢者支援における他職種の連携について
- 【教育課題】
- ・ 子どもを取り巻く健康課題について、アセスメントし、関係機関と連携しながら課題の軽減や解決に導くことができる保育者の育成
 - ・ 医療や保健、看護の知識と技術を持ち、現場での確に判断し対応できる保育者の育成
 - ・ 家族支援の視点を大切にし、援助できる保育者の育成
- 【参加予定学会】
- 日本公衆衛生学会、 日本小児保健学会、日本介護福祉学会、
日本自立支援学会、 日本保育園保健学会 、日本保健福祉学会

佐久間 志保子 准教授

- 【研究活動】
- ・ 在宅介護における介護福祉士の役割
 - ・ 災害時における感染症について
 - ・ 災害に関する小規模高齢者・障害者施設の取組み
 - ・ 障害者の在宅生活の支援のあり方
- 【学会参加予定】
- ・ 日本在宅ケア学会
 - ・ 日本社会福祉学会
 - ・ 日本介護福祉教育学会
 - ・ 日本環境感染学会
 - ・ 日本認知症ケア学会

松 山 洋平 准教授

- 【研究課題】
- ・ 「幼保一体化施設における子どもの育ちを支える保育の質と構造に関する研究」
 - ・ 「未就園児の保護者の保育観と幼稚園選びとの関係」
 - ・ 「保育者の子どもを理解することの深化についての研究」

【教育課題】

- ・担当科目「保育方法」「保育内容人間関係」「教育課程論」において教材研究をすすめ、学生の実態を捉えたの授業展開を図る。
- ・「保育・教職実践演習（幼稚園）」や各実習指導などと連動した、グループ担任としての職務内容を理解し、学生理解に努める

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本乳幼児教育学会
- ・全国保育士養成協議会研究大会

【社会的活動】

- ・子どもと保育総合研究所 所員（研究大会・セミナーなどの企画運営）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木登戸園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木鷺沼園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・田園調布学園大学みらいこども園 園内研究会講師
- ・川崎市保育会合同研修会 分科会講師

河 合 高 鋭 専任講師**【研究課題】**

- ①保育原理におけるインクルーシブな視点についての研究
- ②自閉症乳幼児に関する保護者支援等に関する研究
- ③短期大学生のメンタルヘルスに関する研究

【教育課題】

- ・担当科目「保育課程論」の授業研究
- ・実習ボランティアセンター、実習授業との連携により、実習において学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう一層の授業の充実と工夫を図る。
- ・「保育原理」「保育内容ことば」授業内容の改善
- ・担任グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援
- ・実習指導において保育者としての大切な心的態度やマナーについて

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本特殊教育学会
- ・自閉症スペクトラム学会
- ・日本人間関係学会
- ・日本LD学会

【社会的活動】

- ・日本人間関係学会 事務局幹事
- ・日本人間関係学会 支援活動委員 委員長
- ・東京都葛飾区私立幼稚園連合会 葛飾区私立幼稚園教育実践研究会 講師
- ・日本自閉症協会神奈川県支部自閉症児・者親の会大和市部勉強会 講師

佐藤 美紀 助教

- 【研究活動】 ・高齢者福祉施設における新人教育の実態と課題について
～専攻科卒業生のインタビュー調査を中心に～
- 【学会参加予定】 ・日本介護福祉学会
・認知症ケア学会

山本 正司 助教

- 【研究活動】
- (1)『生活困窮者自立支援法を考えるー居住地を失う人々への支援についてー』
共同研究者 本学 教授 鈴木敏彦
なお、本研究は、2013年度実施を継続します。
- (2)厚生（福祉）と経済学の理論 ―その2― 社会科学の方法をめぐって
- 【社会的活動】
- 民生委員・児童委員（横浜市港北区綱島西地区）任期 2013年12月～2016年11月
- 【学会参加予定】
- (1)社会政策学会
(2)日本社会保障法学会（5月17日・大阪大学）
(3)社会事業史学会

久保田 美沙子 助教

- 【担当科目】
- 社会的養護の内容
- 【専門分野及び関連分野】
- 保育学 児童福祉学
- 【所属学会】
- 日本子ども虐待防止学会 日本子ども家庭福祉学会
- 【教育課題】
- 実習・ボランティアセンター所属教員としての職務内容の充実と学生支援
- 【研究課題】
- （長期）母子生活支援施設におけるアフターケアに関する研究
（短期）母子生活支援施設における母子関係を再構築するための支援に関する研究
- 【社会的活動】
- 2012/05～現在に至る 相模原福祉オンブズマンネットワーク オンブズマン
- 【研究業績】
1. 【論文】『母子生活支援施設における子どもへの支援～一対一の関わりからの子どもの変化～』（単独）2009/03
2. 【論文】『母子生活支援施設におけるDV被害児の理解と支援
～母子生活支援施設職員への調査から～』（単独）2011/03

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 鈴木 敏彦 ）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2014年度は下記の点を重点的に取り組むこととする。本計画は、関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ①新カリキュラム(2014年度生から実施)の検証
- ②教育内容の体系化の検討(カリキュラムマップ／カリキュラムツリー、ナンバリング 等)
- ③新たな教育方法の導入にむけた検討（アクティブラーニング（能動的学習）・課題解決型学習（PBL）等）
- ④実習教育を中心としたサービスマーケティングのあり方の検討
- ⑤授業の少人数化の促進
- ⑥ハード面における環境整備の提案(教室教育用機器備品についての整備の充実)
- ⑦障がいその他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討

（2）学びの組織的支援

- ①キャリアファイルシステム(学習ポートフォリオ)の充実
- ②初年次教育のあり方の検討（短期大学における初年次教育、保育者養成校における初年次教育）
- ③中途退学防止に向けた組織的取組の検討
- ④キャリアデザインセンター支援者を中心とする「保育者を目指す学びへの支援」に関する検討
- ⑤入学前教育の充実(方法・内容等の再検討)
- ⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学修の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映

（3）学修の評価

- ①アセスメントポリシー策定に向けた検討
- ②学修ルーブリックに関する検討
- ③GPA 制度の活用に向けた検討
- ④成績評価の厳格な運用の推進
- ⑤学修成果のフィードバックのあり方に関する検討

（4）連携活動

- ①学校間連携の充実(保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)
- ②高大連携プログラムの充実(聴講生受け入れ 市内高校長との教育研究会開催 等)
- ③産官学連携のあり方の検討
- ④地域連携のあり方の検討
- ⑤専門職団体等との連携の充実(キリスト教保育連盟、幼稚園協会、保育協会 等)
- ⑥保証人との連携の充実(保証人会の開催、保証人への成績通知 等)

(5)生涯教育

- ①リカレント教育の充実（卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催等）
- ②大学公開講座の充実（相模原市との共催 等）

(6)キャリア教育の推進

- ①キャリア教育の推進（キャリアデザインセンター、キャリアファイル、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等）
- ②資格取得支援（保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他）

(7)FD 活動の充実

- ①自己点検・評価報告書の作成
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教員参加の FD 研修会開催
- ⑤学生 FD 委員会活動への支援

(8)教員の交流と研究活動の支援

- ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
- ②教員の研究活動の推進（和泉特別研究費の活用、外部からの研究資金調達への支援）
- ③文部科学省GP等への応募の検討

(9)情報公開・情報収集の推進

- ①自己点検・評価報告書の公表
- ②教員情報の公表（公表方法・公表項目の検討 等）
- ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集
- ④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集

学生委員会（学生部長 大下 聖治）

- （１）キャリアデザインⅠ（学生生活支援）・キャリアデザインⅡ（進路支援）の充実を図る。
- （２）進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- （３）学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。
- （４）学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- （５）学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。
- （６）学友会活動（いずみ祭・新入生歓迎大会等）を支援する。
- （７）学生の課外活動を支援する。
- （８）健康管理センターを充実させる。

図書委員会（図書館長 武石宣子）

１．特設展示の充実

- ①新着図書紹介

- ②各種特集図書（授業科目と連携等）の別置・企画展示
- 2. 蔵書の充実
 - ①昨年度に引き続き特に CDC と連携した絵本の充実
 - ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
- 3. ラーニング・コモンズを踏まえた図書館利用者サービスの向上
 - ①談話可能スペースの拡大
 - ②館内使用限定ノートパソコン設置
 - ③共同研究室の充実
 - ④リサイクル図書、雑誌について
- 4. 図書館利用者のモラル向上
 - ①人的・環境整備（掲示・声かけ・他媒体の検討）
 - ②図書未返却者への督促（ルール化）
- 5. 図書館ホームページの拡充
- 6. 図書館主催の講習会の検討（産業界のニーズの補助金により）
 - ①紙芝居の会
 - ②パネルシアターの会
- 7. 研究紀要発行に関する検討
 - ①閲読基準の見直しと確認シートの作成
 - ②研究紀要の電子化の検討
- 8. OPAC を含む、図書館システムの再構築
- 9. SPSS の利用について
 - ①統計パッケージ SPSS のライセンスを購入
 - ②利用のルールづくり
- 10. 学術リポジトリの導入(2、3年後の導入をめぐり)
 - ①学術リポジトリについての環境整備
 - ②研究紀要の厳選の必要性（論文、研究ノート、報告、資料等レベル確認）
 - ③本学における学術リポジトリについての規程づくり
- 11. その他
 - ①図書館学生アルバイト
 - ②図書館クリスマスイベント
 - ③図書館サポーター
 - ④図書館主宰のイベントと表彰（折り紙作品コンテスト等々）

入試広報委員会（部長 横 川 剛 毅）

1. 広報関係

- ①学園報の発行
- ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・福祉担当教員研究会、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）およびオープンキャンパスの開催及び充実のための検討
- ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑤公開講座（市民大学等）の開催及び充実のための検討
- ⑥和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑦広報戦略の検討
- ⑧教職員説明会の開催
- ⑨同窓会との交流
- ⑩その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①各入試（AO 入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
- ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ③各大学の入試関係データ収集
- ④その他の入試関係業務の遂行

実習・ボランティアセンター委員会（実習・ボランティアセンター長：松浦浩樹）

1. 実習に関する支援

(1) 実習施設の選定・連絡・調整

- ①実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
- ②実習連絡会の実施（年 3 回）
- ③センター便り発行と実習先への送付（年 1 回）

(2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案

- ①授業実施計画の立案
- ②実習直前診断テスト・面談の企画、実施
- ③実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供
- ④1, 2 年生の共同授業企画実施

(3) 実習実施に関わる業務

- ①保育実習Ⅰ（保育所・施設）期間変更に関わる交渉と実習先確保
- ②実習登録の受付と配属
- ③諸手続への支援（登録カード、実習生調書、腸内細菌検査、実習日誌、実習定期等）
- ④実習巡回指導にかかわる連絡・調整。（巡回担当教員の配属、調整等）
- ⑤実習巡回に関わる提出書類（交通費精算書・使用者使用願・巡回報告書等）の簡素化と電子データ化（書類のフォーマット電子化）
- ⑥麻疹、細菌検査等、陰性、陽性反応に対する実習実施規定の見直しと告知

- (4) 実習教材・関連資料等の作成及び保管
 - ①「実習の指導手引き」の作成、配布
 - ②実習記録（日誌）の作成、配布
 - ③実習関連資料の収集と学生への提供
- (5) 学生の個人情報（実習生調書、巡回指導記録、実習出席票・評価票等）の管理
- (6) インフルエンザ予防接種の実施
- (7) 必要に応じた学生への個別支援（家族支援要請）
- (8) その他の実習に関わる支援として、アドバイザーと連携し、特に支援の必要な学生とその家族の相談業務を随時実施。

2. ボランティア活動への支援

- (1) ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供
- (2) 活動先との連絡・調整
- (3) 活動状況の把握
- (4) ボランティア活動関連資料の収集と学生への提供
- (5) 「ボランティア活動の手引き」の作成、配布
- (6) その他のボランティア活動に関わる支援
- (7) 日本保育協会との連携による「ふれあい体験」（保育所）の促進と連絡情報交換

3. 2014 年度の重点課題

- (1) 学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援
 - ①入学生の多様化、とくに健康面の課題を抱える学生の増加や学力差の拡大等を受け、実習実施・実習指導における学内コンセンサスの形成と、科目担当者との連携強化を図る。
 - ②必要に応じて、学生相談室・保健室との連携を図り、個別的対応を要する学生の情報を、グループアドバイザーも含めて共有し、対応上のコンセンサスを得る。
- (2) キャリアデザインセンターの活用（特別教室・キャリアファイルシステムの教材取り組み促進）を図る。
- (3) 実習管理システムの改善（施設データベースの改善）に向けた取り組みを行う。
- (4) 2014 年度生からの実習実施時期の変更に向け、実施時期のグループ配属の検討・カリキュラムの準備を進める。
- (5) 2014 年度は、上記（4）の理由より、センターの業務に留まらず、指導者（アドバイザー）の巡回業務も煩雑になると推測され、これらに関わる書類の簡素化を目指す。
- (6) 上記（4）による、通称「実習実施、3 科目規定」の見直し。
- (7) グループアドバイザーによる実習指導体制の長所（専任教員の個性・特徴・各々の教授法）を生かしつつ、実習指導上の「ミニマムスタンダード」を保持するために「指導手引きの充実」と「実習直前診断テスト・面談」による指導の充実を図る。
- (8) 保育実習の技術上の実質的な科目としての「保育課程論」の指導担当者と連携し、指導内容のコンセンサスを一層高める。

子育て支援プログラム運営委員会（委員長 片山知子）

I. はじめに

子育て支援プログラム運営委員会の活動計画は前年度までの活動を振り返り、見出された課題を検討して毎年作成されている。特に中心的な活動である子育てひろば「はっぴい」は開催場所が学内のキャリアデザインセンターを活用しての活動として周知され、地域からの参加者も一定数を得ることができている。

子育て支援については現在の日本の社会における重要な政策として注目されている事柄である。相模原市においても平成27年度からの「こども・子育て関連3法による保育の新制度」実施に向けて準備されているところであり、今後も地域との連携や養成校として求められる役割を更に期待されている。

2014年度の子育て支援プログラム運営委員会の活動計画は上記のような内外の動きをふまえ、更に学生の学びの場としての意義を持ちながら行うものでありたいと考えている。

II. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月、土曜日）

1. 子育て家族への支援

- ・子どもや保護者が安心できる安全な遊び場と、季節に応じたテーマによる活動や良質の文化、芸術に触れる体験の提供。
- ・親子が共に遊びを楽しみ、くつろげる環境を用意する。保育支援者によるサポート体制を今年度も同じように継続して行っていく。
- ・学生ボランティアを活用し、遊びの見守り（安全への配慮）を行い、楽しい企画（お楽しみ）を提供していく。
- ・毎回の活動には子育て支援プログラム運営委員会委員のほか、専任教員に年間で1回の参加協力いただく。
- ・必要に応じた相談活動を実施する。参加保護者との気軽な会話や等、親しみやすい関係を作るなど、教職員から保護者に働きかけることで、子育ての負担や悩みの軽減を図り、必要に応じて専門機関を紹介する。

2. 学生へ実践的な学びの場を提供する

- ・在学生には新入生オリエンテーションでの呼びかけ、4月中に説明会と準備会を開催し、年間登録制のボランティアスタッフを募る。
- ・学生が乳幼児と触れあいながら乳幼児の状況を知る、あるいは実際に関わる中で子どもを学ぶ機会とする。子どもだけではなく保護者との会話などを体験し、保育職として不可欠のコミュニケーション力を育む。
- ・学生主体の企画（絵本・紙芝居・パネルシアター・手遊び・スタンプ・演奏など）の発表の機会を作り、学生の学習意欲の向上を図り、実践経験の機会を増やす。
- ・学生は前日の準備から当日の終了まで環境整備にかかわり、教職員、保育支援者と交流しながら基本的な生活スキルや保育環境としての配慮を実践的に学ぶ機会を得る。
- ・学生の活動後の支援をバズセッション等のコミュニケーションの場で具体的に促進する。
- ・8月にボランティア学生に対して交流と研修のプログラムを持つ。

3. 高校生への対応

- ・プレカレッジ、入学前教育プログラムの一環として、「はっぴい」の活動に高校生が接する機

会として協力する。

- ・入学前教育プログラムに計画的に組み込み、活動紹介の機会を持つ。
- ・「はっぴい」へ参加を希望する高校生は12月および1月から3月のプログラムに受け入れる。

4. 卒業生との連携

- ・卒業生が希望する場合は「はっぴい」活動時のボランティアとして積極的に受け入れる。
- ・卒業生の子育て世代の親子参加を促し、同窓会の広報活動に協力する。

5. 「はっぴい」の周知活動

- ・本学のHPでの紹介の他、タウン誌等に記事掲載を依頼し、活動内容を広める。
- ・HPで「はっぴい通信」の発行（年4回を予定）
- ・地域の子育て支援関係団体等の見学依頼に協力する。

6. 1年間の活動の振り返りと実態調査

- ・参加者の保護者に、実情と要望を調べるためのアンケート調査を実施し、地域貢献の今後の在り方を模索する。
- ・ボランティアに参加した学生の現状や要望を調べるための調査を実施し、今後の学習支援の方向性を調べる。
- ・上記2つのアンケート等を基に、「はっぴい」の活動を振り返りつつ、活動報告書、あるいは論文を作成し、紀要に掲載する。

III. 子育てひろば(施設開放)：毎週木曜日の実施

1. 木曜日の地域親子へのCDCを遊び場として施設開放する中で学生たちが日常的に、自然に幼児やその保護者に関わることで、あるいは積極的に関心を寄せる機会とする。これは保育就業力の根底を支える実践となっている。このような自然な関わりを通して、学生が保護者のニーズを直に感じとる機会ともなっていることの意義は大きい。今後もCDCの保育環境・教材(玩具・絵本)の質の高さを、保護者が共感し、強い関心を示している状況があることを踏まえ、更に環境の充実に努める。またこの児童の「文化」を備える・伝えることの意味を、授業・講義を超越して、学生が体感しており、その視点での取り組みも継続していく。
2. 継続的な課題として、今後は環境と教材の一層の充実と共に、「絵本・玩具 LIBRARY」として、親子に対して自由に絵本や玩具が貸出できるような場を設けたい。貸出することによる利用者の拡大、安定的利用を図ることは、本校の地域貢献ともなると考える。
3. 基本的には、保護者からの相談に対してサポート的な姿勢を保ち、必要な情報提供（専門機関の紹介も含む）を行っていくことと、季節に応じた話題の提供を行う。
4. 子育て講演会を企画し、子どもを遊ばせるだけではなく、保護者の実質的な悩みに向き合えるような講演者を招き、学生を巻き込みながら、大人の＜学び＞の場を提供する。

IV. おわりに

2013年度も活動計画に挙げながら十分に取組みずにいるところを2014年度も継続的に取組みたいと考えている。なお、キャリアデザインセンターも改装数年を経て自然消耗もみられるようになり、今後はその環境の保持が課題となるだろう。活動の充実とともに現在不足してきている教材教具の効率的な保管管理、適切な収納場所の必要が望まれている。活動計画の円滑な遂行のための今年度の検討課題でもある。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・ 入学案内書一式	2014年	4月下旬発行予定
・ 奨学金リーフレット	2014年	4月下旬発行予定
・ 高校1,2年生向けリーフレット	2014年	4月下旬発行予定
・ オープンキャンパス告知ポスター	2014年	4月下旬配布予定
・ 首都圏高等学校送付入学案内書パック	2014年	4月下旬発送予定
・ izumi NEWS 21号	2014年	5月下旬発行予定
" 22号	2014年	8月上旬発行予定
" 23号	2014年	12月上旬発行予定
" 24号	2015年	3月中旬発行予定
・ 受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2014年	7月上旬発送予定
・ " ②(学園祭)	2014年	9月下旬 "
・ " ③(クリスマスカード)	2014年	12月上旬 "

(2) 主催型広報活動

- ・ 高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・ 高等学校保育・福祉担当教員研究会（6月）
- ・ 和泉プレカレッジ（6月3年生対象・11月2年生対象）
- ・ オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・ オープンキャンパス

1	2014年 4月26日(土)	13:30～16:00
2	2014年 5月17日(土)	13:30～16:00
3	2014年 6月15日(日)	13:30～16:00
4	2014年 7月 5日(土)	10:30～14:00
5	2014年 8月 2日(土)	10:30～14:00
6	2014年 8月21日 (木)	13:30～16:00
7	2014年 9月20日(土)	13:30～16:00
8	2014年10月25日(土)	11:00～14:00
9	2014年10月26日(日)	11:00～14:00
10	2014年11月 8日(土)	13:30～16:00
11	2015年 1月10日(土)	10:30～12:00
12	2015年 3月28日(土)	13:30～16:00

(個別相談会)

(個別相談会)

(入試相談会)

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」(通年)
- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業(随時)
- ・かながわ短大フェア(神奈川県私立短期大学協会)(6月)
- ・進学相談会(会場形式)(随時)
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」(かながわ大学生涯学習推進協議会)(7月・9月)
- ・「ふれあいいきいきフェスタ」(11月)

(4) 公開講座

- ・市民大学(相模原市・座間市と共催)後期2講座
- ・さがまちカレッジ「中学生対象講座」(12月)
- ・介護技術講習会(5月・6月)
- ・介護福祉士国家試験筆記試験受験対策講座(9月～12月)

和 泉 短 期 大 学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出 (2014 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
ビー・プライム	デジタルパンフレット	1 年間
	本学ホームページ公式サイト制作 Facebook	
マイナビ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
リクルート	リクナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
	進学事典 (応援号)	1 2 月
	就職・資格・キャリア号	3 月
キッズコーポレーション	「学校ガイド」 (インターネット商品)	1 年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4 月
さんぽう	短期大学まるわかり事典	4 月
昭栄広報	進路ノート	4 月
進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む)	4 月
進路企画	説明会用ガイドブック	4 月
ディスコ	LINE	1 年間
育伸	配布用ガイドブック TRI-ANGLE (インターネット含む)	4 月
教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	5 月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5 月
タウンニュース	暑中お見舞い号・名刺広告	7 月
	元旦号・名刺広告	1 月
神奈川案内広告	神奈川新聞・迎春名刺広告	1 月
キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10 月
ティーディーエス	ipad 大学紹介	1 年間

ニューアド社	淵野辺駅看板	1 年間
桜栄社	相模大野駅看板	1 年間
神奈川中央交通	バス停正式名称保守管理	1 年間
広告社	小田急線まど上連合広告	1 年間
	J R 横浜線まど上連合広告	1 年間

8. 施設・設備経費

2014(平成26)年度 事業計画(案) 予算

(単位:千円)

					金 額	
(教員関係経費)					12,170	
研 究 費	児 童 福 祉 学 科		単価	教員数		
	○ 教 授	270	×	5	1,350	
	○ 特 任 教 授	270	×	2	540	
	○ 准 教 授	260	×	10	2,600	
	○ 専 任 講 師	250	×	1	250	
	○ 助 教	50	×	1	50	
	○ 昇任対象者差額	10	×	2	20	
	○ 和泉特別研究費				600	
	○ 大学教育改革プログラム				500	
				19	計	5,910
	専 攻 科		単価			
	○ 准 教 授	260	×	1	260	
	○ 専 任 助 教	200	×	2	400	
	○ 昇任対象者差額	50	×	2	100	
	○ 和泉特別研究費				200	
			3	計	960	
				22名	合 計 (	6,870)
教 材 費					3,100	
旅 費 交 通 費					2,200	
(施 設)					123,620	
土 地	内 容		設置場所		金 額	
	○ 土 地(1,536㎡)<第2号基本金>		隣 地		新 規 ①	100,000
					計 (	100,000)
建 物	内 容		設置場所		金 額	
	○ 洋式トイレへの改修工事	改修工事	1	号 館	取替更新 ②	23,180
	○ 空調機械室ドア取替工事		3	号 館	取替更新	440
					計 (	23,620)
(設 備)					7,638	
教 育 研 究 用 機 器 備 品	内 容		設置場所			
	○ マークシートリーダー	1	事 務 局		取替更新	972
	○ 教員用 椅子	21	研 究 室		取替更新	802
	○ プロジェクター、スクリーン他一式	3	104、203、303 教室		新 規	2,706
	○ 光ケーブル敷設工事		2 号 館		取替更新	660
					計 (	5,140)
そ の 他 の 機 器 備 品	○ 職員用 椅子	30	事 務 局 他		取替更新	965
	○ 冷凍庫	1	学 生 食 堂 厨 房		取替更新	293
					計 (	1,258)
図 書	○ 児童福祉学科 1,200 専攻科 40				1,240	
					計 (	1,240)

(単位:千円)

経 費	内 容	個 数	場 所	金 額
通 信 費	○ 保育士特例講座講座案内状送料他			24
	○ 保護者宛成績通知、保証人会			118
	○ 求人票他			213
	○ インターネット基本料金、電話、連絡用切手他			2,029
				計 (2,384)
光 熱 水 費	○ 電	気		14,507
	○ 水	道		2,698
	○ ガ	ス		1,333
				計 (18,538)

2014(平成26)年度 事業計画(案) 予算

(単位:千円)

経 費	内 容	個 数	場 所	金 額
消 耗 品 費	○ 印刷用紙、マスター		印 刷 室	1,659
	○ ソフトウェア			603
	○ コピー料、学生カード絵本他			7,503
			計 (	9,765)
維 持 修 繕 費	○ トイレ便器改修工事(洋式へ)	23ヶ所	1 号 館	② 859
	○ 屋上防水工事		1 号 館	③ 18,400
	○ 屋上防水工事		2 号 館	③ 4,683
	○ サッシ水切り取り合い部他シーリング打ち替え		1 号 館	③ 2,592
	○ 階段ノンスリップタイヤ交換工事		1 号 館	③ 1,104
	○ 教室床補修		1 号 館	③ 178
	○ 施設・機器備品修繕費他			18,705
			計 (	46,521)
清 掃 費	○ 日常清掃、定期清掃他		全 館	13,681
			計 (	13,681)
支 払 報 酬 手 数 料	○ スクールバス委託運行費	@855.75 × 4台 × 12 M		42,250
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬			3,364
	○ 食堂委託管理費			2,469
	○ 管理人業務費			7,098
	○ 業務用システム維持支援費			1,124
	○ 派遣会社諸費用他			8,869
			計 (	65,174)
賃 借 料	○ サーバー年間利用料	ポートフォリオシステム	就 業 力 支 援	1,237
	○ 防犯カメラシステム一式(リースアップ)	本館、研究棟、体育館	カメラ16台、モニター、レコーダー他	166
	○ 教員用ノートパソコン	@18.4 × 19台	研究室	188
	○ 職員用ノートパソコン	25台、サーバー2台	事務局	707
	○ コピー機、ファックス	事務局・2号館	4台	181
	○ 公用車(軽自動車)リース料			358
	○ スクールバス駐車場賃借料他			2,861
			計 (	5,698)
奨 学 費 (給 付)	○ 眞鍋記念奨学金	2名	@365(2年生後期授業料)	730
	○ 児童福祉奨学金	1年後期、2年(前後期)	@100×5名+ @100×2名×2	400
	○ 卒業生・在学生家族	10名	@50(入学金一部減免)	600
	○ 就学奨励奨学金			1,825
			計 (	3,555)
広 報 宣 伝 費	○ 入学案内書、媒体広告他			24,872
			計 (	24,872)
雑 費	○ トイレ改修工事	1 号 館	①	683
	○ 屋上防水工事	1 号 館、2 号 館	③	366
	○ 冷凍庫廃棄費他	学 生 食 堂 他		4,012
			計 (	5,061)
既 存 建 物 撤 去 費	○ トイレ改修工事	1 号 館	①	1,328
			計 (	1,328)

(単位:千円)

※ 主な事業計画		合 計	
① 施設の集中(土地取得)	校舎周辺	計	100,000
② トイレ改修工事(和式⇒様式)	1号館	計	26,050
③ 校舎屋上防水他工事	1号館、2号館	計	27,323
④ 消費増税分(前年度経費3%)		計	6,000

9. 財政の概要

資金収支計算書 (2010年度 ~ 2014年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

		専攻科に改組			予 算	予 算
科 目		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	665,090	703,100	686,633	628,400	638,400
	手数料収入	11,235	10,921	10,881	8,590	8,490
	寄付金収入	1,218	2,918	3,948	500	500
	補助金収入	75,682	60,467	48,297	50,178	49,362
	資産運用収入	23,281	23,367	18,955	23,539	11,750
	資産売却収入	0	0	0	120,000	0
	事業収入	3,663	2,270	2,544	2,336	2,180
	雑収入	57,627	1,361	23,525	19,206	410
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	252,015	247,010	249,095	211,675	213,450
	その他の収入	45,413	68,122	13,354	296,059	424,537
	資金収入調整勘定	△ 313,332	△ 252,624	△ 269,616	△ 231,081	-213,350
	前年度繰越支払資金	1,985,846	1,720,744	1,827,567	1,836,612	1,880,000
	合 計	2,807,738	2,587,656	2,615,183	2,966,014	3,015,729
支出の部	人件費支出	459,945	384,867	415,923	411,290	382,599
	教育研究経費支出	123,181	115,902	112,458	137,287	154,602
	管理経費支出	101,640	110,159	109,968	111,562	103,023
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	5,879	34,134	97,501	27,746	123,620
	設備関係支出	15,809	9,080	5,666	29,028	7,638
	資産運用支出	368,289	103,026	52,885	298,645	301,834
	その他の支出	17,478	16,259	20,097	46,562	11,997
	予備費支出	0	0		30,000	30,000
	資金支出調整勘定	△ 5,227	△ 13,338	△ 35,926	△ 3,260	△ 3,150
	次年度繰越支払資金	1,720,744	1,827,567	1,836,611	1,877,154	1,903,566
	合 計	2,807,738	2,587,656	2,615,183	2,966,014	3,015,729
資金収支差額		△ 265,102	106,823	9,044	40,542	23,566
短期大学学生数		539名	569名	525名	510名	520
専門学校(専攻科)学生数		27名	26名	20名	20名	20
前年度対比学生数		45名増	30名	△50名	△15名	10名

消費収支の状況

(2010年度～2014年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

										予 算		予 算		
科 目				2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		
				金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	
消費収入の部	帰属収入	学生生徒等納付金(ア)		665,090	79.4%	703,100	87.4%	686,633	86.4%	628,400	85.8%	638,400	89.8%	
		手 数 料		11,235	1.3%	10,921	1.4%	10,881	1.4%	8,590	1.2%	8,490	1.2%	
		寄 付 金(イ)		1,218	0.1%	3,418	0.4%	4,013	0.5%	500	0.1%	500	0.1%	
		補 助 金(ウ)		75,682	9.0%	60,467	7.5%	48,297	6.1%	50,178	6.8%	49,362	6.9%	
		資 産 運 用 収 入		23,281	2.8%	23,367	2.9%	18,955	2.4%	23,539	3.2%	11,750	1.7%	
		事 業 収 入		3,663	0.4%	2,270	0.3%	2,544	0.3%	2,336	0.3%	2,180	0.3%	
		雑 収 入		57,627	6.9%	1,361	0.2%	23,525	3.0%	19,206	2.6%	410	0.1%	
		合 計(オ)		837,796	100.0%	804,904	100.0%	794,848	100.0%	732,749	100.0%	711,092	100.0%	
	基本金組入額(カ)		△302,088	36.1%	△62,424	7.8%	△30,858	3.9%	△30,356	4.1%	△18,278	2.6%		
		(第1号基本金組入額)		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	△117,812	16.6%	
		(第2号基本金組入額)		0	0.0%	△40,000	5.0%	△30,000	3.8%	△30,000	4.1%	100,000	-14.1%	
		(第3号基本金組入額)		△302,088	36.1%	△22,424	2.8%	△858	0.1%	△356	0.0%	△466	0.1%	
		(第4号基本金組入額)		0		0		0		0		0		
	消費収入(オ)ー(カ)(キ)				535,708	63.9%	742,480	92.2%	763,990	96.1%	702,393	95.9%	692,814	97.4%
	消費支出の部	人 件 費(ク)			455,330	54.3%	382,590	47.5%	410,831	51.7%	405,055	55.3%	379,824	53.4%
		教育研究経費支出(ケ)			187,174	22.3%	181,298	22.5%	173,612	21.8%	195,259	26.6%	215,259	30.3%
		(減価償却額)			63,993	7.6%	65,397	8.1%	61,077	7.7%	57,972	7.9%	60,657	8.5%
管理経費支出(コ)			108,698	13.0%	115,564	14.4%	116,608	14.7%	117,964	16.1%	109,591	15.4%		
(減価償却額)			6,819	0.8%	6,685	0.8%	6,306	0.8%	6,402	0.9%	6,568	0.9%		
借入金等利息(サ)			0		0		0		0		0			
資産処分差額(シ)			1,655	0.2%	493	0.1%	7,403	0.9%	117,211	16.0%	2,941	0.4%		
予 備 費(ス)								30,000		30,000				
消費支出合計(セ)				752,857	89.9%	679,945	84.5%	708,454	89.1%	865,489	118.1%	737,615	103.7%	
当年度消費収入超過額(キ)ー(セ)				△217,149		62,535		55,536		△163,096		△44,801		
基本金取崩額(ソ)				14,900		13,666		232,071		503,673		0		
前年度繰越消費収入超過額				2,017,639		1,815,390		1,891,591		2,179,198		2,519,777		
翌年度繰越消費収入超過額				1,815,390		1,891,591		2,179,198		2,519,775		2,474,976		
帰属収支差額(オ)ー(セ)				84,939	10.1%	124,959	15.5%	86,394	10.9%	△132,740	-18.1%	△26,523	-3.7%	
{(オ)ー(イ)ー(エ)}ー{(セ)ー(シ)ー(ス)}				85,376		122,034		89,784		13,971		5,918		
資金剰余額(オ)ー(セ)＋減価償却費				155,751		197,041		153,777		△68,366		40,702		

※ 構成比率 = 帰属収入に占める割合

財務比率表（2010年度～2014年度）

学校法人和泉短期大学			予 算					予 算	(単位:%)
区 分		算 式 (×100)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	2 4 年 度 3 0 短 大 法 人	
分類	比 率		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度		
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	消費収支差額 総資産金	21.8	22.4	25.5			-28.1	
	基本金比率	基本金 基本金要組入額	100.0	100.0	100.0			98.2	
	固定比率	固定資産金 自己資産金	83.3	82.9	82.9			93.1	
	固定長期適合率	固定資産金 自己資金＋固定負債	81.2	80.8	81.0			87.3	
	流動比率	流動資産金 流動負債金	663.5	689.3	638.4			304.6	
	前受金保有率	現金・預金 前受金	682.8	739.9	737.3			41.8.8	
	総負債比率	総負債金 総資産金	5.7	5.6	5.7			11.7	
	負債率	総負債金－前受金 総資産金	2.7	2.6	2.8			13.2	
	運用資産余裕率	運用資産－外部負債 消費支出	6.4	7.4	8.4			1.6	
区 分		算 式 (×100)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	2 4 年 度 3 0 短 大 法 人	
分類	比 率		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度		
消 費 収 支 計 算 書	人件費率	人件費 帰属収入	54.3	47.5	51.7	55.3	53.4	60.9	
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	68.5	54.4	59.8	64.5	59.5	94.7	
	教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	22.3	22.5	21.8	26.6	30.3	25.4	
	管理経費比率	管理経費 帰属収入	13.0	14.4	14.7	16.1	15.4	9.5	
	消費支出比率	消費支出 帰属収入	89.9	84.5	89.1	118.1	103.7	95.5	
	消費収支比率	消費支出 消費収入	140.5	91.6	92.7	123.2	106.5	106.2	
	帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出 帰属収入	10.1	15.5	10.9	-18.1	-3.7	4.5	
	經常経費依存率	消費支出 学生生徒等納付金	113.2	96.7	103.2	137.7	115.5	152.5	
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	79.4	87.4	86.4	85.8	89.8	62.6	
	寄付金比率	寄付金 帰属収入	0.1	0.4	0.5	0.1	0.1	1.7	
	補助金比率	補助金 帰属収入	9.0	7.5	6.1	6.8	6.9	26.0	
	基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	36.1	7.8	3.9	4.1	2.6	10.1	
	減価償却費比率	減価償却額 消費支出	9.4	10.6	9.5	7.4	9.1	10.7	

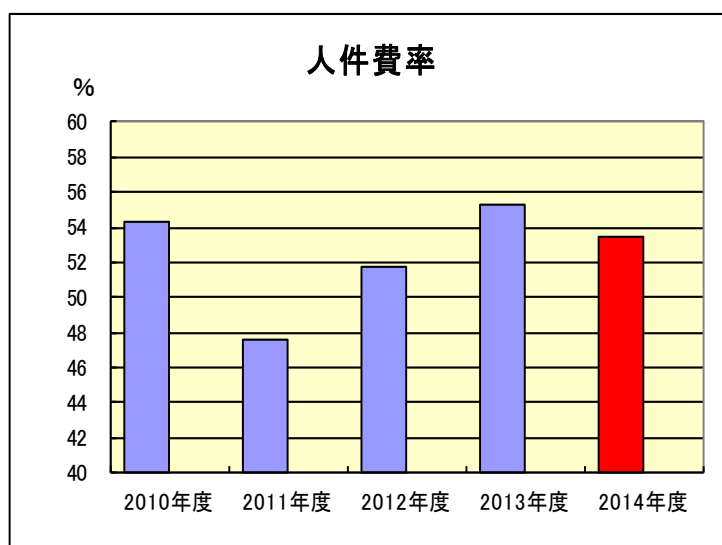
理事会・評議員会 2014年度予算 2014年 3月20日(木)

参 考「今日の私学財政」平成25年度版

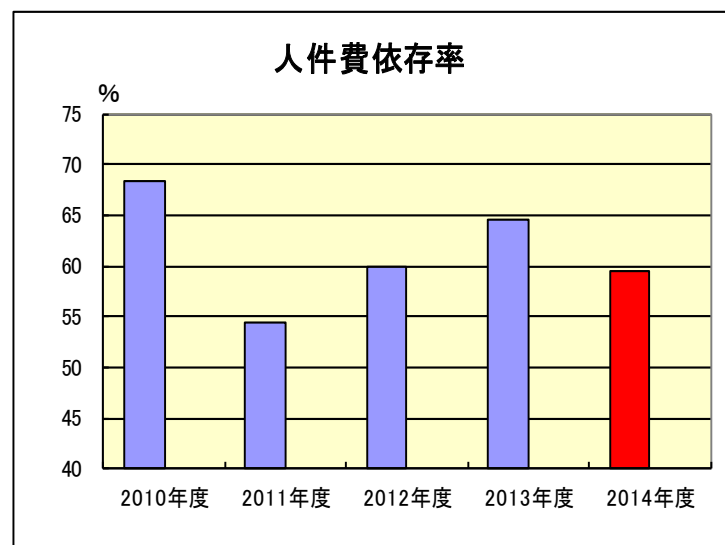
平成24年度 短大法人 113法人

学生数 500人～1000人 30法人

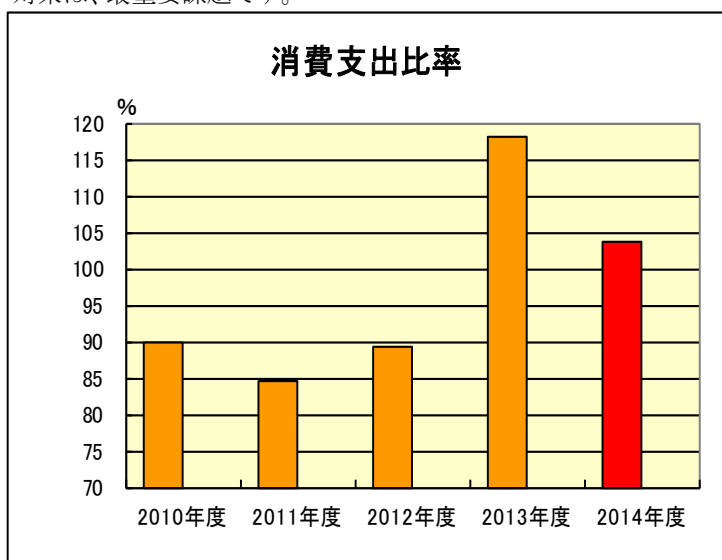
消費収支計算書の財務比率推移（グラフ）と説明



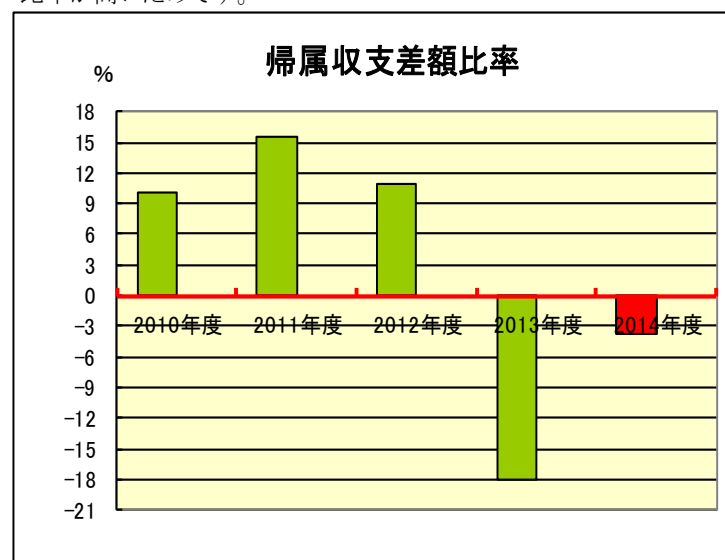
帰属収入に対する人件費の割合です。**50%以内が目安**です。
人件費は、消費支出の中でも最大の比重を占める支出です。
人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。
学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減対策は、最重要課題です。



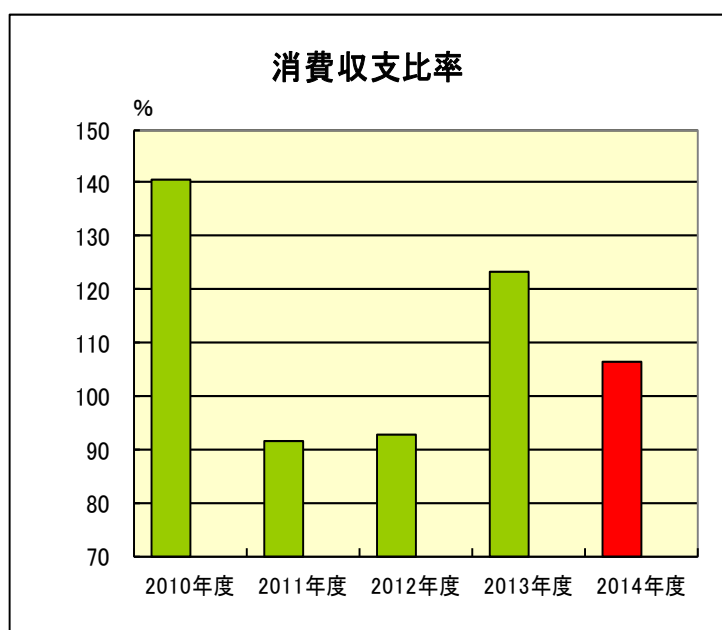
学生生徒等納付金収入に対する人件費の割合。
100%以内が目安です。
人件費は、学生生徒等納付金の範囲内が理想です。
本学園の数値が低いのは、帰属収入に占める学納金の構成比率が高いためです。



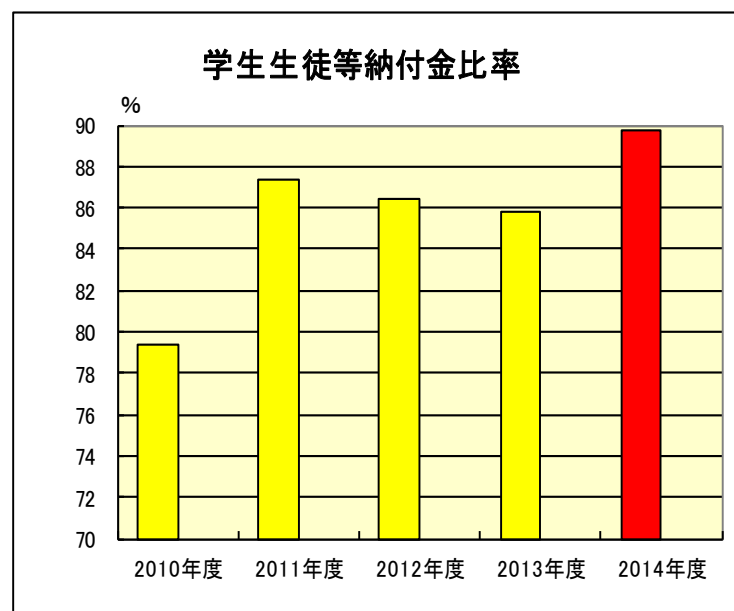
帰属収入に対する消費支出の割合。
学生数の減少が顕著に現れる比率。**目標値は80%**です。
90%以上になると経営が困難になると言われています。
2013年度予算は、100%を大きく超えることが見込まれます。
2014年度は改善しています。
100%以内に抑えないと施設設備の整備が出来なくなります。



帰属収入から消費支出を引いた差額の帰属収入に対する割合。
学園の純利益を表わす、重要な財務比率です。
比率がプラスになると自己資金が充実されていることを意味します。
プラス分から将来の施設設備の取替更新を行います。
マイナスが何年も継続して行くと経営は窮迫し、資金が枯渇します。
10%以上を経営安定の指標にしています。
2013,2014年度と2年間マイナスになる厳しい数値になっています。



消費収入に対する消費支出の割合。
100%以下が目安です。2010年度は、第3号基本金組み入れを行ったため140%を超えました。2013年度は施設売却の為、再び100%を超えました。
支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金繰りで資金ショートを起こすことはありません。



帰属収入に占める学生生徒等納付金収入の割合。
収入のほとんどを学納金に依存しているため
2014年度は、受取利息等の学納金以外の収入が減収となるため学納金に依存する割合が高くなっています。